森永餅畝著

實務家經歷譚

第壹卷

尚友堂藏版

004506−000−1

特20−583

実務家経歴譚

森永　餅畝／著

M30

ACE−1052

特20
583

帝國圖書館藏

實務家經歷譚

森永餅畝著

尚友堂藏版

實務家經歷譚

目次

◉第一編

○白石直治君　一一三

○三輪猶作君　一一六

◉第二編

○大崎宗恭君　二一三

○鈴木善策君　三〇九

○植松好仁君　三九九

○岩井福藏君　四一九

○松岡忠四郎君

○清水恒太郎君

○安藤新兵衛君　五
○鈴木廉平君　六
○廣田久次郎君　六
○森寺喜兵衛君　七
◉第三編
○田中好謙君　五
○吉田千九郎君　六
○後藤榮三郎君　三
○吉田常吉君　一
○伊達太右衛門君　一
○高田清俊君　一
○富森篤君　二
○島崎桑之助君　三
○近藤金藏君　三
○山中傳四郎君　四
○熊澤九右衛門君　四
◉第四編（上）
○金澤山有君　五
○田宮善次郎君　九
○大川孫次郎君　一
○林政治郎君　二
○岡崎龜壽君　三
○田中石之助君　三
○久志本久七郎君　四
○水谷五郎九君　四
○山中秀三君　五

◉第四編（下）
○荒川澤之助君　一
○稻垣新助君　六
○若林喜七君　九
○井上國次郎君　一
○河合善藏君　一
○青木彌七君　一
○寺本庄三郎君　二
○毛利周助君　二
○岩田利助君　二
○伊藤傳六君　三
○山中萬兵衛君　三
○伊藤德平君　三
○佐野吉兵衛君　三
○黑川彦左衛門君　四
◉第五編
○石樽左文司君　四
○川喜多孝助君　二
○中村良造君　五
○伊藤平藏君　五
○伊藤佐榮吉君　六
○片岡善治郎君　〇
○昧香啓次郎君　九
○中村覺三郎君　五
○久保田耕三君　三
○中野久治郎君　九

◉第六編

○内田忠造君　一
○渡邊紋左衛門君　七
○佐藤長吉君　一
○佐々木源三郎君　一
○野呂金貞君　一
○廣田喜三郎君　二
○福村義治君　二
○種瀬仁平治君　三
○鈴木又市君　三
○吉村增之丞君　四
○石川丈三郎君　四
○中川彖左衛門君　五

◉第七編

○小林良助君　一
○高田喜八君　一
○小林源之助君　一
○飯田芳一君　二
○堀新兵衛君　二
○矢田九之助君　二
○廣田文貞君　三
○福田定太郎君　三
○内田忠左衛門君　三
○須藤磯治郎君　四
○古市長左衛門君　四
○加藤金右衛門君　七

◉第八編

○柿彌十郎君　一一一
○村山松莊君　一一一
○矢田六右衛門君　二一七
○村木貫一君　二一一
○內田嘉左衛門君　二五〇
○川北庄左衛門君　二八五
○長田源吉君　二二六
○廣田佐一郎君　三一一
○村上龍左衛門君　三五一
○內田清作君　四一八
○伊藤豐治君　四一五

◉第九編

○大矢知金太郎君　一一七
○矢田久一君　一一一
○村山壽玄君　一一四
○平山平衛君　一一一

實務家經歷譚第一編

森永餅畝著

白石直治君

世に旅行者あり富士山頭に起ちて造化の絶妙を嗜琵琶湖畔に烟霞を吸噓し關原の古戰場に英雄の覇圖功なきを嘆し歸來毛錐子を驅てこれを敘す其快感果して幾何ぞ余は幾多先輩の經歷を討究し而て醇を拔き精を擧げたる偉人大家に面接する恰もこれ旅行者が天下を跋渉して浩々たる長江峨々たる峻岳に遭遇するの快味を覺ふ殊に工學博士白石直治君の來歴を敘するに當り坦々たる平地を去て溪谷を超へ丘陵を踏過し鬱然たる百里の森林を貫き秀然たる峻嶽の絶頂を躡て爍然たる朝暾を望見するの快感なからすとせんや

書者左甚五郎なるもの一匹の鼠を彫刻せしが猫見來てこれを一嚙せり美術の妙實に斯の如くならざるべからず尚も人物を描く逸般の妙諧を知り得ずんば何ぞ能く其特性を描寫するを得んや蓋し偉人大家は人間中最も復雜なる機關を具へ其品性特に錯雜せるは宛然分析せざる鑛石の如く一方に石を含めば他方に金を蔵む然るに區々たる細墨の見を以てこれを臆斷する如き豈に其性情を寫し出すと言はんや然れど吾人は唯々其人物を知らんと欲するの誠意に到りては敢て人後に落ちざるを期す

魚梁瀬山は嵯々として四國南半に聳立し最も眺望の大快を具へ九十九里灣は浩蕩として金波飛び銀濤跳り小艇輕風を剪て漂蕩する處頗る愛すべきの趣味あり斯地は確かに關西鐵道會社長工學博士白石直治君の鄉土にして君は安政四年則ち紀元二千五百拾六年十一月二十日を以て高知縣土佐に產れ舊土州藩士たり父を久家種平と稱し漢儒を以て藩中に噴々たり故に其名を聽く者は遠きを辭せずして來り以て教訓を享け宛然文學界の一大國となれり而て能く門生を指導し復た子を教ゆる則あり君は幼にして父の訓教を享く蓋し家庭の教育容察すべき也斯くして君の學事は著しき進歩を顯はし十二歲に迨ぶ頃い句讀の師なくして自ら書を讀むを得るに至れりと云ふ齠齔の生ず る處土塊も復た馨はしと君の進歩豈偶然ならんや神童の名は忽ちに して鄉黨の間に傳はりぬ年甫めて十三歲藩校致道館に入學し專ら漢學を研精し而て讀書の上に義解せざる難句あれば父に就きて蒙を啓きたり當時維新革命の後に當り人心盡く尙武よ歸着し會々文事を談するものあれば軟弱取るに足らずとなし傍輩多く其迂を笑ふ然れど も父更に顧みず鼓舞激勵力めて之を研究せしむ想ふに君が嘲笑の間に學びたる讀書力は他年成功の基礎を築きたるや言を須たず時に父久家氏君を膝下に招致し季父中島作太郎……信行……慷慨にして夙

に勤王の志を抱き、歳僅に十九脱藩して長州勤王黨に投したる事實を説き聞かせ大にこれを奬勵したり實に君は斯の如き剛健なる家庭に成育せり

果然として學事の運命は美くしく君を導けり則ち明治三年笈を負ふて東京に遊學す時に後藤象次郎氏は君の深沈大度動作群童に超ゆるを見て酷た深く之を愛し以て父母に謀り自家に收めて撫育することを好むこと益々厚く研精愈々力め半宵兀々として書策に對せしかば人々その勉强に驚きたりと云ふ明治八年開成學校に入學して科程を專修し精力を傾注して精讀また熟閲愈々切磋の功を積むこと數年後に東京大學と改稱するに迨で工學部に轉學し刻苦精勵寸陰を空消せず終夜端坐書を讀み眠に堪へざるに至れば机に恁りて一睡し醒むれば亦た讀み嚴冬酷暑の夜と雖も曾て帶を解き安然として蓐に就きたることなく其試問に應する毎に優點を以て級中の首席敢て他人に渡さゞりしと云ふ復た以てその學才を窺ふに足る斯の如く非常の讀書力と稀有の勉强心を以て學業を卒へて理學士の稱號を得たり

忽にして書齋の人は實動の人となれり君の學識と手腕は實務の上に發揮すべき時機に達せり忽ち農商務省御用係に拜命し其職に精勵し明治十五年六月に至り更に東京府御用掛に轉任し最も誠實を以てその事務を處辨し頗る伎倆を顯はし來れり忽ち莞爾として君を麾くものあり君は歡んでこれが手を握りこれと接吻せり敢て問うこれ何物ぞ曰く海外留學の倖運これなり則ち明治十六年三月文部省留學生に撰拔せられ土木學研究のため米國に航渡せり抑も米國は土地宏大にして住民少く處々に磽确不毛の地あるのみならず峨々たる峻嶺浩々たる大河各州の中に縱横貫通せるにも拘はらず幾十年前より國民擧て鐵道事業を設計せしより交通頓に頻繁を加へ人口日に增殖し曾て

茫々たる原野も今は人家稠密なる都會と變じ先きに無用の長物たりし產物も後に其價格を數倍するに至れりこれ全く鐵道事業が文明を助長したるの實證たり君は今茲處に來りて斯業を修めんとす豈に多少の感慨なからずとせんや則ちッロー大學に入りて土木學の奥を究め尋てベンシルバニヤ鐵道會社に就き鐵道業を査覈し而て實地の技術を討究し更にフイニック橋梁會社に遊び各種橋梁の設計を研鑽し復たこれが建築に從事し倍々土木學の興味を感して精勵怠らず學大に進み碧眼奴皆君が勉强力に驚けり其實修二ヶ年間偶々今村清之助氏鐵道事業視察として歐米に漫遊し其途次新育府に停り則ち君と相會し君は鐵道業の公益ある事實を學理に徵して最も詳細に說明せり故に今村氏い始めて鐵道業の有益なることを確認するを得たり天錄奇なる哉爾年の後今村氏は關西鐵道會社の常議員に撰ばれ而て君は其社長に擧げられ相俱に鐵道事業に從事するに至るとは明治十八年十月更に歐州巡回を命せられ米國を發して英國に涉り佛蘭西に赴き西班牙に出で諸工場を歷視し更に轉して瑞士に抵る抑も鐵道業の利は既に歐米諸國これを知れり唯その來往は平路に限り俯仰僅に七八度の斜坂を走るに過きず然るに米國人曾て山岳を超うべき蒸瀘車を通ぜんと一種の鐵軌を架せしかこの功を奏せず瑞士人更に其工を聽て幾年の思慮を凝らし尋常雙軌鐵路の中央に更に一條の鐵を布きこれに齒格を設け其上を軌る瀘車は前伏して後軒起す前に二箇の施齒輪あり後に一の施齒輪あり此齒輪をして中條の齒格に入り轉々せしめ以て左右兩輪の力を助くる所以なり則ち阪路の急なる傾斜三十度の角をなすも猶ほ上下せりこれ有名なる瑞士エルイッキ山に布設せるアプト式の鐵道なり惟ふに君か此觀察は如何に鉄道研究上に最も適切なるべく與へられたる活ける教科書ならずとせんや終りに伯林府工業大學に在ること數月倍々學術技藝を練磨し確かに土木學の

目的を遂け明治十九年十月を以て歸朝せり君が私に淑して齎すもの豈に他の洋行者と撰を一にして談るべけんや

大凡業成り名を擧ぐるの早き君の如きは稀有なり而かも些の失敗なく些の蹉跌なく殊に成功の連續するに至ては寔に異數にして大名夙に科學社會に刻され官直ち君を拔きて工科大學教授に任し奏任官四等に叙せられ專ら後學の士を誘導訓致し尋て農科大學の囑托に蕃り土木學を教授せり而て其子弟に接するや自ら師を以て居らず其眼中師弟なく唯々後進者を以て取扱ひ諄々として說き懇々として導き講論明晰條理井然論し去り論し來て更よ倦まずために學生の景仰追慕する處となれり明治二十三年三月第三回內國勸業博覽會審査官に任命せられ能く其職責を盡し功勞頗る多し仝年七月奏任官三等に累進し尋て正七位に叙せられたり

科學界の大を一捻して百味を嘗め盡したる君は果然鉄道業に手指を染めたり時に明治二十一年にして正に官の允許を得て公職の餘暇に藉て向後四箇年間關西鐵道會社の工事監督を約したり則ち其任に當り深く線路の撰擇に注意し則ち險を避け夷に就き迂を捨て直を採り復た貨物集散の要路に鑑み而て旅客通過の好地を稽へ設計を案出して董工其宜きを得せしめ殊に初任社長前島密及次任社長中野武營兩氏を補翼し所謂客將の地を占めて會社機機の要務に參與し愈々その竣工を見るに至る而かも此時に於てゐの學藝と聲望と器に於て已に社長の後繼として信せられたり

果然株主總會は開かれたり而てその大多數は謳歌して君を社長に撰任せり蓋し自然の大勢ならんのみ

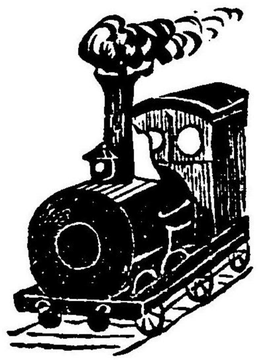
蓋し學藝を採り實驗に徵すこれに從ふものは與りこれに逆ふものは瘢つ此理自ら確乎動かすべからざるの意義あり今や學藝と實驗を兼備せる君は一躍して社長の椅子に踞す爾りしより關西鉄道會社の基

礎は大に鞏固なるを得ん君は能く内外の氣運に鑒み熟慮深考愈々斯業の實勢を明かにするを得たりこゝに於て消極的の經營より實益を擧げ功利を收めつゝある君は積極的の經營に藉て大に爲すあるを期し則ち事を量るに四日市名古屋間に於ける新線路の利を以てせしかば商議全く整ひ則ち工を起し而てその線路中日本の一大河たる木曾川鉄橋の大工事及揖斐川の難あるにも拘はらず設計董工其宜きを得て明治二十八年十一月を以てこれが全通を見るに至る其功績豈に大ならずとせんや而て復た既設の幹線たる柘植驛より分岐して最も峻山嶮岳多き伊賀大和の境域を貫通して奈良に達する枝線布設ありてろの工事着々進行し今や一部の落成期に達せり

抑も鐵道は距離愈々長く連絡すれば利益亦從て大なり之に反し會社の規模狹少にして短距離の鐵道此處彼處に布設しあるときは處々に貨物の積換へ旅客の乘替へ等其煩雜云ふに忍びず故に此不便を避けんためには小線路を連續して長距離を貫通せざるべからずこゝに於て既設線たる浪速鐵道を讓り受け亦た未成線たる城河鐵道を買收せり今や斯の如く小線路を連絡して種々の不便を除き小會社を合併して確かに規模を統一するに至る噫何ぞそれ關西鐵道の進歩發達斯の如く熾んなるやこれ全く君が經營の堅實なる寧ろ世人の豫想外に出るものなくんばあらず

抑も人に絶對的美善の技能なく學識に是認せらるゝものは必ず實務に否認せられ古に推尊せらるゝものの必ず今に排斥せらるゝを特り白石君に於ては識量過大にして最も學藝に長し最も實務に通じ彼れ一呼此れ一應以て着々大奏功の基を成し其人物に至りては日本の鐵道歴史ありて以來未だ曾てろの儔を瞻ざる處蓋し君の科學力には敢て競爭線なくろの技術には敢て併行線なく更に學藝の力は各鐵道會社に通して吹き渡ること天風の私し無きが如しために君が一言一行は

鐵道社界の定論と成り亦た型典となることをこれ優に君が頭角を見はしさるの明證たらずんばあらず而てその容貌は整秀以て親しむべくその性行は持重の質周到の見質實の風直截の氣威望の嚴以て犯すべからざるものあり而かも敢て森嚴を用ひず平易寛洪を以て部下の期望を皷吹せりために部下これを愛敬して各自擔任の職に精勵せり殊に記憶の力强烈にして各課の要務を暗記するに至ては屬僚簿書を以てするも敢て及ばずして往々困めらるゝこと少からずと云ふ



三輪猶作君

亭々として地を拔ける老松風骨自ら高く敢て他の感染を受けず扶持自ら守り而かも其根を托する土壤や頗る少量にして斷岸絶壁奇岩怪石の層上と雖も猶ほ根を硬着し而てその技葉能く風雨に頑抗し能く霜雪に禦敵し彼の日常艶を競ひ麗を爭ふ軟弱の花木か忽にして爛熟忽にして離落するも特り堅執して隆冬を經るも更に凋落の色を彰はさゞる豪健硬勁の性情は三輪猶作君の資質に酷似するを聯想せざらんや時としては朋友これを擧けて非とするも君特り是認し朋友これを擧げて是とするも君特り非認し確く自信するの識見敢て人の是非を顧慮せず自ら任する處を把り斷乎として敢行す故に君の踏む處頗る重く君の握る處頗る堅く君の起つ處殆んどこれを右に推すべからず亦たこれを左に搖かすべからず

三輪猶作君は伊勢國三重郡四日市町濱田の人にして嘉永三年則ち紀

元二千五百九年六月十五日を以て產る幼にして倜儻不羈而て贅を堀木聡堂に執りその讀書にけるや殆んど周圍の物を忘れて自己の全心を其所に一注して反覆熟讀自ら理解する處あるに非ずんば學の成ることなきを誠認せり故に一句を咀嚼し一言を解釋し得たるときは直に把りて智慧囊の裡に收容せりこれぞ後年に至て君の記臆力を强烈ならしむるの素となれり熟々我酒造界の情況を案するに徒に舊套を株守して改良を加へず唯各自の經驗を以て其事に從ふのみ亦學理の研究を爲すことを知らざるなり君は夙に眼をこゝに注き明治十九年頃三重酒造改良協會の主唱者となりてこれを設立し專門技師を聘し泰西の學理を探窮してこれを我國の實際に驗し舊套守株の蒙を啓き新智開拓の勞を執り釀造術は決して單純なる酒造法にのみ因らず學理を應用すべきことを知らしめたり

一聲の荒雞猶ほ能く曉に先て東天紅を報ずるにして一律の發布は忽ち社會の組織に一大變化を來せり由來民人は租稅の義務を盡して何等の特權もなく何等の地位をも得ることなく而て政治は唯だ官吏の手に藉て執行さるゝのみ適々明治十一年府縣會規則を布告し多額の地租を納むるものは地方政治を左右するの參政權を得たり然るに當時の人心頑陋にして議會に參與することを恐懼し或るものは讓り或るものは辭じ或るものは享けず貴重の參政權を放擲するの傾向を生せり此機に當り君は猛然として起ち政治上の運動に手足を投じ撰擧區民に推されて初期縣會議員となれり其議場に起つや縣民を代表したるの議員として深く地方政治の利害得失を査竅し一意以てその任務を盡し縣民の福利を增進することを努めたり就任僅に一年にしてこれを辭せりと雖もその縣民に政治思想を皷吹したるの功豈に少からずとせんや

抑も港灣を以て生產の母と做す四日市港にして完全なる港湾を築造

せざること既に非なり猶ほこれを放棄しつゝ敢て顧慮する處なくんば其非なること或は幾百萬倍せんか君は夙に眼光をこゝに注き活躍せる思想飛動せる行爲を以て築港事業の急なるを喝破絶叫したるは實に明治十六年の頃にして當時の岩村三重縣令に商量し或は圖案を作り或は設計書を編み或は實地測量を試る等幾多の手段を講し幾多の方策を究め心身のあらん限り大に經營努力せしも氣運未だ熟せず時機未だ來らず手を拱き頭を傾け此等の消息を斷つに至れり倘しろれ譚偶々築港事業に轉すれば君は哄笑一番して曰く「敗軍の將い勇を談せず」と吾人はその然らざらんことを望む今や港事難澁商勢落日の時なり誰れか回天の策を立るものぞ希くは拾數年前に溯りて敗軍の將は大に勇を談するの人となれ

果然として光榮の美味は君を見舞へり事業界の名譽は君の前程に落下して其拾ふに任せり而て事業の光榮とは何ぞ敢て言ふまでもなく

取引所新設の一事これなりこゝに於て君は潑然たる運動に着手せり蓋し君は事の初め甚しき冷灰の人なれども一たび其眞相を解せるときは强靭なる感情を以てこれを攝にし以て自個掌上の物となさずんば滿足すること能はざるの氣慨を抱く故一たびこれがために身を致して運動を試むるや强頑不屈の手段を以てこれが創立に奔走し或は知事に就きて申請の理由を縷述し或は農商務省に出頭して請願に追び內は聲援を集め外は同盟者を得て苦心慘澹百方奔走して更に怠る處なく彼の既設桑名取引所と僅に三里の近距離に位するにも拘はらず竟に願意を貫き官の認許を得て四日市取引所の設立を見るに至る豈亦た其効績大なりとせはざるべけんや尋て株主總會に於て理事長に撰任せられ其衝に當りて經營拮据その宜きを得て愈々取引所の基礎を鞏固ならしめたるは蓋し君の力與て大に居らずんばあらず

玆ゟ四日市港に於ける實業上の諸會社に關係するその主要なるもの

を擧ぐれば關西鐵道會社監査役として四日市銀行重役として三重土木會社取締役として四日市倉庫會社重役として四日市取引所相談役として殆んど君の與かり知らざるもの少なきに至れり故に各會社の事務は日夕その身邊に纏繞し他人に在てはこれのみを以て忙殺せられんとするも君は能くこれを處理して遺漏なく而かも綽々餘裕あり

て更に商業會議所役員及町會議員（明治十二年以來）の公務を帶び維れ職維れ努む

三輪君は强頑不屈にして自ら信ずる頗る厚く自ら爲す所自ら言ふ所一として自ら是認せざるはなく其執着力の强剛果鋭なるに於ては安石も三舍を避くる程なりき而て昂然天下の豪傑を以て居るものにして苟も人に許さず酷た一笑一　を吝み自ら高く標置す世の有力家多くは胡蝶の如く輕々として空を飛び行けり君獨り足を擧ぐるや重くその踵を着するや堅くその趨るや步武整々恰も軍隊の運動する如し

此半面より觀察すれば君は寧ろ天下の俊傑たるの資格を具へたるものの然れども最高上の意義を含む自信は必ず謙德に伴はざる可らざることを果して君は差別見を意識するに深切なると仝時に平等見の眞善美をも感得する人なる歟

曾て聽く東京の割烹舗櫻雲臺邀に君に翰を寄せ名譽會員たらんことを懇囑し來り而てその末文に「三輪猶作殿執事御中」の九文字を認めあり君直に自筆を把て「拜復主人義云々」と書き起し末段に至り殊更に「三輪猶作執事」と認めたる拒絶の返書を送れりと云ふ確にこれ敵の武器を掠めて敵を擊つの奇籌妙略この一事は君か自筆を以て活ける自己の人物を描寫したる精神的影象として復た自敘傳として君の性行を驗すべき微妙の關鍵たらん

實務家經歷譚第二編

大碕宗恭君

蘇老泉曰く……功之成非成於成之日蓋必有所由起……想ふに一盛一衰一消一長は正にこれ古今東西を透徹せる人類歴史の大途而て花は春に咲ひ月は秋に清く夏は茂り冬は凋むこれ天然界の榮枯消長則ち把り來て人類歴史の隆替と計較するに足るべし日本郵船會社四日市支店長大崎宗恭君が今日の椅子に踞する豈偶然ならんや君は幼にして如何に辛酸多き生活の間に成長せしか幸に皇天の祐助に藉て豐富を得、聲譽を博し能く景福を保有しつゝあるも蓋し功成る所以の活歴譚を聽くこと亦た必要ならずとせんや

遠州横須賀の地は近く煙波玲瓏たる潮水を湛へ遙に潔然として雲を凌きつゝある富岳を仰きまさにこれ好箇の活書鄉君は嘉永三年則ち

紀元二千五百九年庚戌二月を以て此の閑雅の地に產れたり春は竹馬の友と共に花鳥を探り夏は海邊に魚を捕へ水に浴し澄み渉りたる秋の日は龜頭を漫步し冬は富岳の白雪を眺めて此上もなき快樂と成せり蓋し君が後年の大器は既に端を此機に發露して實直眞摯寬容獨立の資質はこの遊戲の中にその面影を示しぬ齡ひ僅に九歲にして橫須賀藩の儒臣（後に陸軍練兵敎授方及兵學校敎授方たり）片倉孝三郎に追從して學業を修め後仝藩の儒臣神島道の門に入りて皇漢の典藉を攻究し國家の興亡古今の變遷等大に會得する處ありて門人中常に頭角を彰はし頗る才器を以て知られ而て藩主西尾公の茶坊主たり時に年十七尋て橫須賀藩學校の助敎に進み學童を薰陶し最も其職に勤勉したり更に轉して其藩の會計係に敘せられたり

權威赫々として飛鳥を墜す德川幕府三百年の覇業倒れ世は蓋處に王政復古の端を奏し明治元年新政府の基成り新律綱令を發すると仝時

に軍隊の組織も亦た一變し來り洽く諸藩中より士卒を徵集するの新令を下せり故に橫須賀藩亦新政府の命を奉して氣骨稜々たる壯年漢を撰拔せり此時君ハその一人に擧げられその年六月京都へ出張を命せられ軍務官へ出仕し朝に武を講し夕に兵を練り頗る熟達する處ありて陸軍補備官……今日の士官……に敘し尋て軍務官會計係に拜命せり其翌二年三月任期滿ちて歸國せり仝年五月藩主西尾忠篤子千葉縣安房國へ轉封さるゝや君も復た追隨してその地に轉居せりと云う明治二年西尾藩に大革新は敢行せられ而て制度は一變し來りて局を設け課を置くや君は會計局出納課へ出任して復た物產係に兼任したり抑も房總の地は海洋に面し頗る漁業の利に富む殊に總州九十九里の海邊ハ水產物を以て無上の財源と成せり君は藩命を奉して明治三年同地へ出張し花房藩物產方に從事し翌四年に迨べり

時に明治新政府の改革は筍皮を剝くが如く層一層緊切になり來り仝

五年に迨び藩を廢し縣を置くの令は下れり則ち木更津縣を上總に設置し柴原和氏これが長官に任しこゝに地租改正の擧あり君は推擧されて地券係を拜命せしも其志に非るを以て直にこれを辭せり

世の治平に推歩すると共に文明の曙光は輝き來れり由來槍先を以て功名を得たる時代は過き去て筆を揮ふて名譽を握るの新時代となれり君慨然として以爲く……全國泰平に歸着し而て郡縣畫一の治政を見る今後まさに發達すべきは必ず文事なるべし苟も身を立て家を興すの途は唯劍を賣て書を沽うべし……と自ら奮て東京遊學の志を立てんとするも如何せぬ學資を獲るの途なきため空しく希望を抱持しつゝ快々として不平の天を頂き其地に足を駐め川口成齊……大鳥圭介勝海舟君に學ひし人……に追從して英學を攻究したり

君の抱負斯の如く君の自信斯の如し然れども世間先輩の士は他日航運業の驍將たる雛兒を遇する所以の禮を知らざりき否な寧ろ社會は君に倖福を與へずして失望をもて應接せり而て君は學資を絶てり如何にして自立すべきか財産なく收入なく殆んど赤條々たる君は大膽にも斷然志を決して明治六年東京に奔り就學の便宜を探れりされども竟に就學てう機會を握ること能はず殊に風波荒き當世の海上を漕き奔ることを得ず滯留僅に三ヶ月余にして失望と苦艱とを苞に替へ悄然として鄕土に立ち歸へり

君は這般の失望と苦艱の重圍に陷るにも拘はらず倍々其志氣を皷舞し後圖を描き而て便宜を探り方策を講したる中茨城縣に於て寒水石採掘業を經營せし舊仝藩士富永發叔氏なる人遙に君の人物を看取し直に招聘してその業務を一任したり時はこれ明治七年の頃なりき當時君の境界は世間並に生活することを得たりされども君は斯く思へりこの時機は自已運命の消長史に於ける大段落にして退て守れば亡び進んで取れば興るの一大塲合而て餓へ渴く如く智識を求むる君の

腦膸は倍々讀書の嗜好を強くせり此猛烈なる嗜好力を慰むべくその把り來る業務を捨て再び足を學業の大旋渦中に投ずるに至れり則ち遠大の希望を擔て多數繁華の實權を掌握する横濱に遊ぶ而て貧は君の頭上を壓せり資を補ふて學を修むること能はざるは勿論衣食を支うることさへ能はざりき然れども此時既に君は一個の知己を有したりき則ち横濱税關の官吏渡邊牧太氏これなり氏は君の器を偉なりとし善く遇して英學を授けたり茲處に於て君は天涯知己多きの感をなし更に生活の困難を覺へざりしため倍蓰倍の氣力を皷し業學に向て駿馬の馳るが如く進み來れり而て君は漢藉の素養厚かりしためこれを師たる渡邊氏へ授け斯くして漸く氣運ゝ榮へんとす然るに意外なる案外なる災害は天邊より飛び來れり則ち病魔てふ大敵これなり茲に於て君は再び人生の辛酸を嘗めるに至り而て半面には生活の困難と相戰へり此不幸の海底に投げ込れたる究措大は如何にして病魔を退治するか如何にして貧困を防遏するか竟に一年間病苦の裡に煩悶せり抑も君も亦た……天の大任を斯人に降さんとするや必ず先づ其心志を苦め其筋骨を勞し其体膚を餓し其身を空乏せしめ其所爲を拂亂せしむ……の範圍を超脱すること能はざるの人なるか當時君の鐵腸萬斷せざらんとするもそれ得ん乎

自負獘衰出家鄉　漂流干此幾星霜
杜鵑勿叫窓前月　憂國壯士裂鐵腸

と歌ひしが如きこれ當時の境界を描きたる一種の縮寫的自叙傳ならずとせんや遮莫過度の困究は人心を怯弱に導くの憂ひあり今にして皇天此人に倖福を與へずんばこの可憐の士は愁眉を開き鬱情を散ずるの時なるかべし」失意の巷に氣息奄々として綫に殘喘を保ちたる君は復活し來りて事業の衝に當るの機を得たり明治九年舊總州久留里藩主黒田直養氏製茶業の荷爲替を經畫して來利舍を設立するに當

りて君はこれに招聘せられ會計主任の局に衝り專ら入るを計り出るを制し營々刻々として其職に勤勉せり然れども素とこれ貴族の手に成る事業。實利を擧げんとするも幾多の事情はこれを許さず而て資金の欠乏を生しその年末に迫ぴて事業を閉るの否運に至れり

君は再轉して日は傾きて夕は急き地平線上鳶色をなすの悲況に陷れり噫々君は何等の罪かあるゞ失意の神は何れぞ君を失落園に手を惹て導くものぞ君は希望の微笑を見んとして見るを得ざりき噫君の精神酷だ痛むこれぞ君が拾年間處世の中に困難。經驗。憂苦と戰ひたる最も悲むべき運命の記錄たりと知らずや

爾りし以來君の運命は最も悲慘なるものなりき殊に變化多き世路の辛酸に打たれたるの記錄なりき然れども倖運は再び柔かなる顏を君に向くべく見へたり則ち仝鄕の先輩淺田正文氏は君が理財の器あるを識取して明治十年三菱會社へ紹介の勞を執れり而て會計係に任命せらるゝを得たり何ぞ圖らんこれ君が今日の地位を握り得たるの導火線ならんとは

噫昨日は怒濤舟を呑み岩を喫み天を浸し地を動かしたるの海洋今日は煙波千里一望鏡に似て浮鳴の波上に眠るを見るが如き快境君の得意想見すべし此とき快感は端なく吻頭に發露し來る

蓮花已謝菊花開　歲月如流逝不回
尺蠖得伸知何日　從容默坐待春來

まさにこれ君が悲哀を去て快活に就き世の暗黑の半面を去て輝ける半面を見るを樂しむ理想的寫眞なりき

明治十一年兩館支社の勘定係に轉任し仝十三年七月三菱本社に歸任し更に仝年八月野蒜支社（則今の石卷支店）勘定係に任し强忍能く業を把り激勵能く其職に堪へ篤く本社に信せられ仝十五年野蒜支社副支配人の椅子に踞するの倖運に到達せり仝十八年三菱會社を解き新

に日本郵船會社の組織成るや轉してこれに入社し更に石卷支店副支配人に任せられたり此年君等二三の知友と謀り着實平和に全港の事業を進捗せんと欲し石卷商工會を設立す而て其港に於ける財産家にして智識あるものは爭うて本會に加盟しその勢力頗る強大にして公共事務は悉く商工會員を以て處理するに至れり蓋し今日の商業會議所の變形たる觀をなしたりしが君は此會の幹事たりき仝廿一年酒田支店に仝廿二年伏木支店に轉任し仝廿三年一月四日市支店に來りて副支配人に轉し專ら業務に勤勉したり

それ商業を發達せしめんと欲せば協同團結して相俱に利害得失を研究せざるべからず君はこゝに感ずる處ありて前三重新聞社長佐久間健壽氏と相謀り四日市十二日會を起したり仝廿四年七月再び石卷支店に轉任して支配人に進む君は復た横濱に漂流して悲歌を咏したる寒措大に非るなり日本航海權を掌握する郵船會社の支店長として今や得意の境に在り然れども君は決して故態を失はず故に屬僚に對して親切なりき荷主に向ては謙讓を表はしたりき殊に君は自己の手腕を揮うて自己の伎倆を顯はさゞることを期せり然れども世人は君の人物たるを認識し嘖々として歇まざりき

仝廿五年の頃石卷より鳴子に至る鐵道布設の利あるを看破してこれを當時の宮城縣知事船越衛氏等へ相謀り設計まさに成る

元來大崎氏の石卷に於けるや數年一日の如く地方の利益を圖り殊に石卷より鳴子間鐵道に就ては盡力一方ならず最初地方より二十万圓の株を募る豫定なりしもの案外にも二十八九万圓に達したるは偏へに氏の盡力の結果云々

これ東北新聞に特筆したるの事實亦た以て君が如何に石卷のために經營努力する處ありしかを確認し得べし蓋し今日に於て愈々石卷鐵道會社の成立を見るは君が計畫の餘瀝ならざるを知らんや

明治廿七年五月。四日市支店に轉任せんとするや石卷塩釜の有志家はその別離を惜み本社に對して留任の事を請求せりとぞ今仙臺自由新聞につきて之を見るに

郵船會社石卷支店支配人大崎宗恭氏今般四日市支店支配人に轉任せしが同氏は是れ迄石卷地方のため盡力せしこと一にして足らず今回の鐵道布設の件に就ても與りて力あるの人なれば是非とも留任を願はんとて同町の荷主諸氏は取敢ず電報を以て其旨を東京本社に致し去廿六日願書を調製し各自調印の上総代として管野。中島。菊池の諸氏上京せりと云ふ

君が石卷地方に於ける聲望の如何は敢て吾人の喋々を要せんや仝年五月。四日市支店長に榮轉して今日其職に執掌せり而て四日市商業會議所特別會員に推選されて專ら實業發達を經畫し仝廿八年十一月仝國商業會議所聯合會を名古屋に開設するに當りて君は四日市商業會議所特別委員として臨席したり

四日市港商業の主要品たる乾燥肥料は昨廿八年來頓にその價格を暴騰せしめたりこれがため東山道各地に供給する干鰯鯨鯡類の肥料は入船毎に滿載し來りて港頭に搬致せるものその幾百萬俵なるを知らず然るに各荷主は倉庫の供給充分ならざるためこれを受容することを能はず一時は稻葉街頭に集頓して幾十の小丘を成せり君は此時に際して幾多の思慮を凝らし最も迅速に數棟の藁小屋を建設し或は事務所を以て倉庫に充て以て街頭に堆積したる肥料を收容してこれを保管し雨水の浸蝕暴風の災害を防き敢て荷主に對して許多の損耗を蒙らしめざりし如きこの一事は確かに君が平素荷主に對する行爲の如何を知る微妙の關鍵たらずとせんや

君の資性は篤實寛裕而て崇高なる識見を具へ敢て邊幅を張らず敢て修飾を用ひず人に接するに至誠を以てし欵曲迎合至らざるなく亦能

く士に下り賢に禮することを忘れず諄乎たる譚話の間にも和氣藹然として些の圭角あらず必ず人をして景仰の念を起さしむ一言にしてこれを評せば温諄如玉の一句最も適當ならん殊に社務上のことゝ言へば獨斷せず偏聽せず其言ふべき處を云はしめ訴うべき處を訴へしめ自らは最後の審判者を以て任し切言すれば屬僚の意向に敵することを欲せず否な寧ろ渠等の意向を導きて少くとも自家藥籠の中に入れんと欲するが如しこれ君はその博くして大なる衆智を使用して悉く自己の材料となし得る偉大の器を抱けゝこれ識量の宏大にして尋常に超越する所以なりと云ふべし明治廿九年彼の成川三重縣知事一たび職を辭せしや日本新聞(第二千四百四十七號)は君を擧げてその知事候補者に擬したることありこれぞ君の人物たるを說明するに於て大なる案内者たりと云ふべし吾人亦た何の好む處ありて今更漆上に墨を加ふるを要せんや

往昔はクロムウエル平常兵卒を愛し其軍營にある未だ曾て一人を刑せずために軍隊皆その識量に信服せり吾人は君を評し來りて此等の快感なくんばあらず

鈴木善策君

驅客一たび關西鐵道に藉て四日市停車館に抵り西北に歩する數百歩忽ち壯宏の大廈を認るむ處或は母指大の破璃瓶を携ふる者或は視力衰へたる老人にして壯者に導かるゝもの或は眼邊に短冊的の黑紗を纏ふもの或は青眼鏡の力を藉るもの或は保姆に負れたる兒童或は杖に縋るの嫗或は車を驅るの士或は桃色の絹を以て瞼上を蔽ふの女子往くもの來るもの總てこれ盲を患ひ眼疾に罹るもの之ぞ關西眼科界に獨歩を占むる眼科病院の光景にして其院長は誰ぞ曰く鈴木善策君その人ならん

輕舟一棹木曾川を下る首を廻らせば風光畫くが如く翠壁一重雲一層眼は岸傍の一邑を認むこれなん鈴木善策君が鄉土にして君は文久元年則ち紀元二千五百二十年六月四日を以て岐阜縣海西郡駒江村に產れ其家は高須藩に仕へたり癈藩置縣の政變に際して尙武の餘習依然勢力を有し文事大に衰頽するに至る君は未だ弱冠ならず而て學事の忽にす可らざるを疾呼し有爲の少年と相會して學を請し超然俗流に脫出して夙に志望の異なる處ありしと云ふ時に君以爲今や志を立るの時徒に鄉黨に躊躇する豈に鳳鳥籔澤の嘆なきにあらずやと明治八年奮然志を決して東京に遊び醫學を修めたり仝十一年濟生學舍に入學し孜々亦汲々日夜斯學に精勵し春曉秋夜未だ曾て惰らず其試驗に應する每に常に優等點を得て其級の第一席を占む同輩以て及ばずとなし大にこれを畏敬したり明治十五年に至り其全科を卒業したり斯の如くして醫學上の訓練を得たる君は創めて世に立ちて治術をなすべきの時運に赴けり則ち明治十七年岐阜高山病院に招致されて眼科主任と成り數年養成し來りし學理的に照らして其病源を探究してれを實驗的に徵して以て其術を致す眼疾に罹るもの盡く快癒せざるものなし而て其病院に職を執ること纔に一ヶ年余にしてこれを辭し

明治十八年三月伊勢四日市港に來りて醫門を開けり日々數十の眼疾者に接し叮嚀至らざるなく治療を加ふる最も切實を以てせり然れども君尙は眼科の蘊奧を探究せんと欲し其年十一月再び東京に遊び帝國大學眼科敎授たる醫學士須田哲造及眼科專門を以て歐州より歸朝したる楳錦之丞に追從して最も病理の攻究に其思を傾け難問窮理大に眼科上の玄微を極む須田醫學士は君の伎倆を偉なりと鑑識し明治十九年一月に至り須田眼科病院助手に招致せり爾來須田醫學士に親炙して眼の敎育論。不具不全論。撿眼術等の學理を推究し或は親しく眼病患者に手を下し學術と治療法を咀嚼參考し拮据精勵始めて其堂に至るを得たり明治二十年四月其職を辭し再び四日市港に來り眼科專門の招牌を揚げたり忽にして君が新治術の絕妙なることは萬目の注視する處となれり其名を聽くものは遠きを辭せずして來り俄然として醫界の一大國となれり時に一友君を歡奬して曰く此機に乘じ一大病院を建設し患者の渴望に從はんにはと此に於て君も亦決する處あり斷然資を拋て醫院を設計し土木數月にして其功を竣ふ爾來眼疾者蝟集して治術を請ふもの陸續絕へず一日百名に降ることなきに至る今日の眼科病院則ちこれなり其患者を遇する如きは最も懇切を極め毫も挾む所なし常に新治術を案出し專ら舊式の療法を改良することを努む從來諸家の治療し能はざりし至難の眼病患者にして全癒の效を表はしたるもの尠からず殊に眼科治療中最も困難を極むる眼球癒着症の如き一たび療刀を揮ひ兎眼結膜を截り執りて植皮術を施すが時は迅速神の如く病者其苦痛を感ずることなく至難の術を半笑の中に施し去る如き世人は其妙術に驚嘆せざるものなし噫亦た眼科界の俊兒と云はざるべけんや

學者は業成り名遂げて其師を忘れず明治二十四年須田醫學士偶々病魔に襲されて熱海温泉に療養せられしため院務に當るの人物なし則

ち君を招聘して代診を囑せり當時君は自家の主管せる病院の患者のみにても大多忙を極むるにも拘はらず私家の業を抛ち其年一月東京に馳せ上り須田眼科病院の代診に補せられ數多の患者を診斷すること五箇月余如何に君が以て師恩に酬ひたりしかを知るべし

斯の如く醫業に多忙を極むる身を以て仝二十六年二月四日市醫會幹事に推撰せられ次て明治二十七年一月北勢醫會幹事に任し復た仝年三月三重朝明郡醫會評議員に擧げられたりこれ君が地方醫界に於ける榮と云ふべし殊に君は東京眼科界に噴々として或は眼科會の委員に或は明々堂同窓會の幹事に撰ばれたること前後其幾回なるを知らず亦た以て聲譽の如何を窺ふに足るべし

鈴木眼科病院長は人と爲り謹直にして能く禮節を重んじ日新の醫術と其堅實にして精刻なる眼光を以て手腕に應用するの妙は他の學び易からざる處彼數醫輩は富豪權貴を診斷すること精にして貧者に手術を施すこと甚だ粗なり君は常に醫者の習氣と情僞とを知れり故に誠めて曰く眼病は貧賤の疾なり故に此病に罹るもの下等社會に多し蓋し貧民救助の要は眼病治療策にありと以て其道義に富むを窺ふべきなり而て君は閑ある毎に盲目原因の調査に從事して一家の定論を立てたりしも草稿未定に屬するを以て今尚ほ机底に存せり然れども拾數年の經歷を積み精査熟慮して超草せるもの豈に未定稿の故を以て永久机底に潛伏せしむべけんや吾人は速に梓に上るの機を渴望せずんばあらず

蓋し船舶の海を航するや必ず舟師の功に因る後進刀圭家の醫門を開き治術を研く亦先輩醫家の力を藉らずんばあらず君能く人を量りて善く用ひ各々其伎倆を發揮せしむ見よ愛知縣愛知郡西部醫會副會長吉田鶴三郎。仝縣額田郡岩津村岩城貫三郎。仝縣名古屋市猪飼穐。岐阜縣武儀郡藤田邦彦。仝縣加茂郡大前元榮。及信州飯田町馬島徐藏の諸

氏濟々たる名醫前後輩出せりこれ全く君が後輩を提撕したるの結果にして勇將の下に弱卒なしの格言更に斬新切實なるを覺ふ聽く君は壯心勃々として眼科研究のため歐米漫遊の企圖を抱き機會を得るあれば進んでこれを實行せんと欲せり復た以て着眼の遠大なるを窺ふに足る

植松好仁君

三尺の屏風は一躍して超ゆべからず陵遲して漸次に高ければ千仞萬丈の峻嶺も猶ほ登るを得べし蓋秩序に從ひ漸次を追て遷むは處世の至道なるか渠の壽志弱行の徒一瞬一日一年の短時期に經驗して成功の落ち來るを俟つ恰も亞非利加の沙漠に於て滋雨を俟つと一般のみ豈亦た愚ならずやそれ經驗は才力を研磨する自然の訓練場なれば必ずや永久なる歲月間に實際の業務に就き一ッの勞苦を積み他の成功を作り具に其前後の情勢を探り亦た表裏の連絡を究め成に就き敗を避け以て漸次に發達上進を期せざるべからず倘し然らずんば書を讀む萬卷何の益かあらん蓋し才力は經驗に觸れて長ずとそれ植松好仁君は兵庫縣但馬國出石郡出石町の人にして萬延元年則ち紀元二千五百拾九年十二を以て產る幼名を錦一郎と稱したり故に其家系を按ずるに寛政の頃信州上田の城主仙石越前守政俊に仕へ其後仙石家が但

馬出石に移封するに當り追從して出石に轉居し代々仙石家へ仕へたり父左武郎氏は資性剛邁倜儻にして武術に達し殊に日上新刀流居合の技に長じ復た馬術を能くし藩兵大隊長の職に在り而て馬術師範を兼攝したり君弱年の頃父の敎によりて居合を練習す時に藩侯の前に召され其技を演し大に恩遇を得たり而て藩校皇道館に入學して漢學を修め習字を學び復た數學を專攻せり而て後文學博士加藤弘之の實弟加藤正矩豐岡洋學校を設立するに際してこれに轉學し專ら英學を研究したり幾何なくして君は人生の悲慘を嘗るの不幸に陷れり則ち年十一にして最愛の父を失ひ遺されて孤となれり然れども其母歌子は賢にして婦道あり而て子を敎ゆる則あり頑是なき君を膝下に招き韓信の袴下を潛り太閤の草鞋取り墟原太助の忍耐など物語りして聞かせ復た亡父の武藝修業中の艱苦せしことを語り其切磋の功を積むべきことを奬勵したりこゝに於て君は慨然志を立て茲に母の膝下を

離れ東京に出づ然れども夫成の才智は磽确の地に落ちしと雖も敢て枯死することなく疾風勁草を知るが如く四圍の困難は君をして倍々才智を研磨する訓練場たらしむ年僅に十三創めて三井組に入る抑も君が銀行業の大長途に登る躋頭第一着の首途なり爾來一身を簿書の裡に托し經驗ある先輩を敎師として銀行事務を研究し躰力のあらん限り智力の堪へん限り魂氣强く精勵苦行したりしため漸々信用愛顧を得明治十年に至り茨城縣土浦出張所に轉任し倍々業務に勤勉して其技能を磨き尋て仝縣取手出張所詰と成り間斷なく執務に精勵し銀行家たるの素を養ふ明治十二年四月仝縣麻生出張所々長に累進し誠實勤勉の行爲は確かに本店の信任を厚うし仝年九月三井銀行本店に歸任せり而て復雜なる業務の衝に當り解を擧げ全力を傾け迅速活潑これを截斷し大に其伎倆を開展し來りしかば明治十九年二月札幌支店に榮轉するの好運に遭遇せり而て其任に就くや最も簡便法を以て

預金爲替諸手形を取扱ひ而て深く擔保品の眞贋を査察して滯貸の憂を防く等益々營業法の好案を講せり明治二十二年六月再び本店に歸任す蓋し札幌は北海道の要地たり君が滯在中個人として見聞せるもの其利する處少からすとせんや

猛惡の風浪にあらざれば水手の伎能を知る能はす紛亂雜駁を極めたる至難の業務にあらざれば事務者の手腕を試むること能はす明治二十二年十二月横須賀出張所祝融の災に罹り諸帳簿を烏有に歸せしは勿論社員三名燒死せるの慘狀に陷れり此時君は業務整理の任に當る然れども如何せん頼るべきの根據なく大に苦心慘澹而て後一種の觀察力を以て氣を附け意を注き所謂枝を見れば幹に迨び幹を見れば根に及ぶの新工夫を案出し紛を釋き難を截り綽然として餘刃を保ち一舉して曠癈したる事務を整理し得たるの手腕は明白なる事實なりと知らすや

魚は水に因りて泳ぎ才は物に觸れて長す君は實動の修養に藉りて倍々手腕を伸ばし來り勤勉寧日なく專ら日本銀行代理事務を處辨せり何ぞ識らんや此一事は日清の役大本營の下に軍用金を算するの動線ならんとは明治二十四年八月一躍して廣島支店副取締に進みたりそれ銀行の目的は信用を利用し貨幣の融通を司るに在り則ち一方に借りて一方に貸し貸借上双方間に立ちて利息の差格を儲くるを以て上策とせり由來廣島には第百四十六銀行第六十六銀行廣島貯蓄銀行尾道貯蓄銀行支店等均しく營業すれども四銀行の預金高七十一萬圓に達せす然るに特り三井銀行支店のみ彼等の預金高に比し數倍するに至るは素より日本金融界に於ける三井家の信用厚きに屬すと雖も蓋し君が其局に當りて措置其宜きを得たる功與て多きに居るなり茲に於て君は再躍して三井銀行廣島支店長の椅子を占ひるに至れり

日清の役起るや大本營は廣島市に遷されたり實に三井銀行廣島支店

は日本銀行代理店を命せられ而て國庫より支出されたる幾億萬圓の軍用金は盡く其支店の手に因りて取扱はれたり君は必死の全力を澆きて職務に當り部下數十名を指揮し各長技を拔きて互に相扶けしめ大多忙の衝に立ち悠々乎として其手腕を揮ひ而て深更未明の區別なく所謂寢衣のまゝにして急速に出納を辨し幾何の便宜と都合とを軍隊の行動に與へたりし事は固より傍人の容易に端睨する所にあらざるべし

君一たび四日市支店に榮轉するに際して廣島縣高等官銀行會社紳士豪商相集て送別の盛宴を春和園に張りて君が既往の功勞を謝し而て惜別の情を表はしたり則ち明治二十九年二月を以て四日市支店長に轉任せりこの地は素と東海の良港にして貨物輻湊の要區たり而て現に特別輸出港の一にして復た開港場の候補地たり必ずや今後は金融界の膨脹を生せんこれ君が一臂を揮うのときにあらずして何ぞや

盡し高尚なる理想は一瞬轉息に成るものにあらず如今多くゝ一獲千金を輕擧して當世と衝突しこれがため失望しこれがため墮落し竟に世を害し人を惑はすもの比々皆然り獨り君は須く其志を遠大にし精厲の意克己の念以て一日より延長して一月に迨び更に一年に達し十年に至り着々徐々その理想の實現に從事し竟に今日の功を奏するを得たり而て君は其事を行ふて其名に居らず親に仕へて至孝友に交はりて至信敬を盡して人を俟ち誠を推して世に接す殊に母堂貞賢にして婦道あり令閨亦た淑愼の德あり琴瑟輯睦庭に間言なく親子相敬し夫婦相愛するを以て和氣洋々として堂に充つ斯の如くんば何を爲してか成らざらん何を欲してか至らざらん

岩井福藏君

人の志望を社會に達んとするや必ず其目的を確定せざるべからず倘し目的を定めず方針を立てずして世に處するは宛然到達の港を定めずして海洋を航するが如し漂々泊々無益に於て洋上に逍遙し一朝風起り雨濺き波怒るや竟に沈沒の災に浴し空しく海藻と化し去るは素より言を俟ず蓋し處世の目的なき人は東に漂ひ西に泊り志望の彼岸に達する事能はず空しく一生を世波險惡の裡に托し失意落膽志望を達するを能はずして歎むもの則ちこれ處世の方針を失うがためなりその拙劣愍笑すべし而て其所以を討尋すれば畢竟目的を確立して一直線に進まざるの過失なり想うに人生目的なくして處世せんとするは……足を斷て走らん事を望むものなり……故に人の社會に處せんとするものゝ最も重すべきは目的を確定して一年これを革めず十年これを變せず百年これを更へざるにあり苟も一事業を企て自ら其事從うて名を擧け家を興さんと欲ず必ず滿身の力を籠めてこゝに注き志望のために生き志望のために死する最終の大覺悟無るべからず倘しこれに反し朝に商業に足を投じて失敗し夕には工藝に手を伸ばして損害を蒙り更に學者たらんことを期圖しまた一轉して政事家たらん事を望むも胸裡一定の識見なく輕躁浮動一進一退するものは必ずや人生行路難の中に迷ひ流離困頓の裡に不幸の生を終はらざるを得ざるなり故に苟且にも志望を確立せし以上は百難來るもこれを排し萬難逼るもこれを打擊し人生行路難中峨々たる峻阪は脚袢を利して踏み急激の溪谷は裳を揭け屐を脫して涉り必ず難に屈して初一念を變ずべからず余はまさに岩井福藏君の事蹟を叙し來て不撓不挫の大精神は必ず成効の母たるの確證として之を社會に紹介せんとす

岩井福藏君は高知縣土佐國高知市桝形町の人にして安政元年則ち紀元二千五百十三年十二月二十三日を以て產れ而て家業は呉服商を營

み品質の精良と價格の低廉を以て販賣せしため洽く華客の信用を博して商運大ゐ隆盛を極めたり君は幼少の頃より儒者荒川三橋に追從して學業を精研し傍ら店務を補佐して買賣の駈引帳簿の整理等を實習せりされども君は常に大志を抱きて僻陬にあるを厭ひ大都に出て事業を企圖せんことを想ふて歇まず時に以爲く海國に產れたるものは須く海事思想なかるべからず而て此思想を現實にせんと欲せば一に航海運輸の業に身に致さゝるべからずと意氣頗る昂然たり蓋し志あるものは必ず方便ありとの古語に漏れず偶々故日本銀行總裁川田小一郎氏は君が海事思想を有することを嘉みして措かず親しくこれを提撕して明治六年三菱會社高知支社へ紹介せり時に君の齡ひ僅に十九年これぞ君が海運社界に初陣の首途にして他日功名をなすの端緒となれり當時三菱會社は曾て土州藩に使用したる汽船數艘を拂ひ下げ僅に近海を渡航しその本社は大坂に設立せり則ち君は明治六年十月大坂本社に轉任して廻漕係主任となる

明治七年臺灣征討の師を發し尋て翌八年長州前原の內亂を攻伐するの軍起り更に明治十年西南の役ありこの時政府は臨時に陸軍運輸局を神戸港に設備せり恰も好し君は全社廻漕係主任の衝にあるを以て獻身的手腕を揮ひ最も敏活に最も神速に軍器兵糧を搬致することを努ひ殊に當時未だ兵站部の成立あらざりしかば糧食の賄需軍夫の募集等に至るまで日夜寢食を忘れて神戸大坂西京等に去來繁頻能く働き能く努め敢てその供給缺くことなからしめ軍隊をして麻姑を俟ふて庠を搔くが如きの想をなさしめたるは素より三菱會社の力に藉ると雖も內に在て運輸の要衝に當り毫も搬致上に不便の憾なからしめたるは蓋し亦た君の功勞少なからずとせんや

明治九年四月神戸支店に轉任するに至れり此年航海陸運附帶の機關たる棧橋創めて成りてゝに運輸上鐵道との交涉を見るに到り酷だ荷

役の混雜を極む君は幾百の人夫を使役して或は海に積荷し或は陸に荷揚げ最もその任務に精勵努力せり

俄然航運界の一大敵は目前に顯はれ來れり則ち東洋に於て航海上の權力を振う處の英國ピーオー會社なる者にして其船舶を我邦の沿海に派遣して三菱會社の航路を掠奪せんものと横濱港へその支社を設けて最も激烈なる競爭を始めたり彼は積年の經驗をもて世界にその名を轟かしたる有數の大會社我は新設日未だ淺くして航海の實驗に乏しき一小社されども三菱會社は大にこれに抵抗したり殊に君の如きは其職廻漕係たるを以て苦心慘澹多數の貨物を聚集することを努め或は運賃を低下し或は荷物取扱上の迅速安全を期する等百方全力を盡して至らざる處なし幾何もなくピーオー濠船の顏色を失はしめ竟にこれを日本海の外に驅逐するを得たり知らずや一株の樹は大なるとも以て森を成すに足らざることを果して然らば三菱會社が遭

般の競爭に勝を執りしは無數の社員あればなり倘しそれ此等の消息を解悟するものは必ず岩井君精勵の功眞にこれ少なしとも謂ふべからず

明治十三年十月三菱本社は廻漕部に恰當の人材乏しきを憂ひ貨物取扱の手續運賃の取引等彼を察し是を識り活潑の氣遠斷の智毫も遲疑せずして事務を整理するの人を各支社に遣してこれを撰ぶ君は則ち選拔せられて三菱會社東京本社輸出係主任に任ぜられたり其得意想ひ遣るべし

水は岩石に觸るゝ毎に跳る君は復雜なる事務に接する毎にその精神は奮ひ來れり跳り來れり而て愈々强大となれり蓋し雜務劇忙てう一鞭の力は君をして愈々精苦の念忍耐の力を養成せしめ三菱會社のために一身を獻して其職に死するの覺悟を決せしめ日夜精力を盡して最も社務に勤勵せしめたり宜哉社長岩崎彌太郎氏は君が職に勉勵し

て本社のために盡したるの功を賞して金貳拾五圓を下付せりまた以て如何に君が功績の顯著なりしかを知るべし仝廿五年四月横濱支店輸出入係主任に轉し尋て函館支店へ轉任せり

此時機は君の經歷中最も愉快の時代なり最も繁忙の時代なり最も苦心の時代なり最も勤勉の時代なり最も大手腕を揮ふの時代なり則ち世に名高き日本航海社界の大問題たりし三菱會社と運輸會社との劇烈なる大競爭これなり

三菱會社が航海業の全權を握り政府と雖も之を制御するに苦むの大勢力を有するに至りしかば明治十五年新に共同運輸會社……半官半民の性質を含む大會社を設置し以て航海業を開きたり茲に於て航海社界未曾有の大々的競爭は起る君は函館支店に在勤し貨物を聚集することに滿幅の精神を盡し運賃を惹き下げ荷主を歓待し彼運賃を低下するの策を執れば我は一層其程度を進めて運賃を惹き下げる等競

爭の熱度愈昂り殆ど底止する處を知らず渠れ無賃にして旅客を乘船せしむれば我は無賃乘船の客に對して山海の美味を安排したる食膳を供しまた景物として手拭等を餞け殊に貨主の如きは盡く割烹樓に誘ひて滋味嘉肴を供し美酒を酌む等君が拾數年來航海業にて錬上げたる幾多の手段を盡して貨主を遇する進退度あり擧措宜しきを得嚴然として動かざること山の如く疾きこと風の如く烈しきこと火に似たり其方策最も老練巧妙を極め最も敏活に働らきたりと云ふ

明治十八年十一月三菱會社と共同運輸會社を合併して新に日本郵船會社の組織成るや君は更に其社に轉し均しく廻漕の業務に執掌せり

明治十九年十月郵船會社四日市支店に轉任して輸出入課長となり精細なる手段を以て荷主に對し及ぶ限り貨物輸送の手數を簡易にして最も迅速安全の法を以て取扱ひ復た陸と船舶との間に揚卸をなすにも不整亂雜等の憂ひなからしめんことを期し常に汲々として之を守

り拾有年間一日の如く維れ職維れ努む明治二十八年郵船十社深川出張所に轉任し倍々その任務に精勵勤勉しつゝありと云ふ

君は性端嚴正肅行爲しとやかにして低聲に物いひ莞爾として笑ふ所謂言笑少なき人終日腦を搾りて徒に俗受のよからんことを力むるを好まず故に初面識にては如何にも無愛矯に見ゆ然れども一月交れば愛すべき人一年交れば愈々純良の人たるを識る嘘君の如きは精細緻密微を集めて大を期するの特質を有するの人ならんか今や豪放磊落細故を顧みず一夜の中に洲股河畔に白堊巍然たる城樓の成就したるが如く一舉して濡手粟を攫むの奇利を欲し多くは失敗して零落するもの比々皆然り獨り君の生涯は恰も旅客が迢々たる千岳萬峰を一杖の力に藉りて去來する如く必ずしも疾驅せしに非ず必ずしも休憩せしに非ず日又日年又年行々又行々而て階復た階を踏み梯復た梯を登り覺に今日の地位に達するを得たり

松岡忠四郎君

峻山の下に深谷あり閉鎖の後に開放あり如今日本の文學は閉鎖の壓道を過ぎて放開の新天地へ進み來れり曉に文壇の老將軍新に鎧を脱き奬を脱したる駿馬の如く新聞雜誌を編述すれば暮に讀詩社會の若武者吾れ劣らじと籠を離れたる猛鷲の如き勢力を以て新思想を流露し來り句章を競ひ新奇を爭う著作せるもの……讀書する人俱にこれ狂奔するものゝ如く日に梓に上るもの月に鉛型に投するもの奚ぞ啻だ汗牛充棟のみならんや而て其圖書印行に要したる西洋紙は斯學の發達進歩を促がすに與て最大の力を有したりと云うべし松岡忠四郎君か四日市製紙會社に與へたる厚益便ち社運難澁商勢離落の局に衝て活腕を揮ひ曠癖したる事業を再興し革新の柱礎を建設し今日の旺盛を極るに至らしめたるその實歴を敘せしめよ

四日市製紙會社專務取締役松岡忠四郎君は伊勢國多氣郡齊宮村乾寛

治氏の實男にて埼名を敬次郎氏と稱す嘉永四年便ち紀元二千五百拾年十一月八日を以て產れ後に到りて三重縣三重郡日永村松岡明寛氏の家を襲く其母は賢にして婦道あり姑に仕る至孝兒を敎育する則あり自ら稼穡の勞を把り最も勤儉を旨とし男兒の如く獨立に男兒の如く嚴格ありき而て文に長し和歌を嗜み鷄然として溫厚の風を具へたりしと云う殊に兒を敎ゆるに諄々として倦まず便ち甘乳。穩言。實意。赤誠。に由りてこれを感化せり君い慈母の鐵型中より鑄成せられしの人その甘乳と與に慈母より享受したる眞率。純潔。の行爲に至りて今日に迨ぶも敢て頭腦に深刻せる處多しと云う

封建の築堤一時に潰裂し既にして各藩其封土を奉還し昔天率土皆王化に沾うに至り天下の形勢まさに一變し來れり君見て以爲く兵革漸く收まり全國治平に歸す今日以後當に大に發達すべきは實業なるべしと忽ち旅裝を整へ商業視察として東京大坂へ啓發す時はこれ明治元年の頃なりき洽く各處の工藝場及商業區を巡遊して外國輸出品の現況を探究し或は技術品製作の實狀を看察するなど耳に聽き目に觀る萬般の現象い君をして智見を擴め思想を新にせしめて百聞一見に如ずの消息を解せしめたり蓋し君が此の商業視察は後日實業家たるの技能を助長する動線なりと知らずや

明治四年松岡家を襲き其家政に與り能く兩親へ仕へて孝養を盡し能く婢僕を愛して勞を忘れしめ收むるを計りて出るを制し益々富財を增殖することを努めたり明治七年地租改正の法行はるゝや君は卒先して小作人より收納せる掟米の高率を改革してその耕作人の收益を豐かならしめたりこれがため從來小作人を苦しめて一種職業となしたる幾多の地主は君の手剛き改革に響動せられてその餘波を蒙り竟に小作米の率を低下するの止むを得ざるに到らしめたり時に年僅に二十五

由來日永の地は東海道の小驛多くはこれ旅客の通過に由て生產的の利益を獲取す便ち朝に江戸の客を送り夕には浪華の旅人を迎う故に旅客多くはこれ一夜の客たり已に一夜を過れば早や責任なしために嬌僞を逞うして利益を貪るの惡風あり君大にこれを憂慮し專らその弊を排除せんことに努む時恰も好し明治十二年村會制度行はれて議員を撰擧するの事あり則ち君は村民の輿望を負て議場に起ち最も風紀を整然たらしむるの意見を提出し私曲を罰し汚行を矯め惰風を糾ち舊來の惡弊を一洗し一面には勸儉の道を奬勵し敎育を普及せしむるなど總ての公共事業はその一手によりて實行せられたり此年君は日永村學務委員に撰擧されたり當時學齡童を養成すべき校舍なしこれを見て設立の要を感して人每に家每に敎育の諸忽すべからざることを說き復た校舍設立の急なる所以を論す村民その要に感激して大に贊同を表し速に設計せられ尋て新築の功を竣ふ今日の日永學校則ちこれなり想うに聊語の辭を聽くに至るこれ君が盡力したる餘韻たらざるを知らんや

國家社會制を實行したる明治政府も時勢の進步に促されて其民情を參酌し民力を養うを以て政治の大本となすの得策たるを知り自然に地方自治の傾向を生じ來れり此時に乘し君は一郡一鄉の民衆に推擧れて三重縣會議員に當撰し曾て窃に時事に注集し來りし意想を迸發して縣下に於ける物產を蕃殖せしめ民敢を振作し大に福利を增進せしめんことを經畫しつゝありしも常置委員撰擧につきて頗る失態を生したるため大にその非行を攻擊して歇まず竟に內務大臣へ之を建議して處決を請ひしもその決議無効と認定せられしため峻節硬直の代議士盡く辭表を提出して職を退けり君の如きは此の波瀾を起しの卒先者にして亦た辭職者中の急先鋒たりしと云う而て時はこれ明治十六年の頃なりき

蓋し今日資産あるもの其壯年に至れば一夜千金を酒色に費して餘さゝるは一般の常態なり當時君其中に在り敢て華美の風に染まず友人これを忌み勸めて狹斜の巷に誘はんと欲し百方全力を盡すと雖も頑として動かず衆其志の硬直なるに服して亦た勸誘せざりしと云ふ殆んど十六年の間足を遊廓に入れず耳に鄭聲を聽かず亦た夢を洞房の裡に結びたることなかりしと云ふ

製造工業は國家の財源にして其事業一々數ふるに遑らず倘しそれ利用厚生の道を講究せずんば徒に勞多くして酬少なし渠の製油業の如き專ら舊慣を株守し人力を以てこれを製造せんか其費多く其勞酷だしくして器械的製造の百分一にも達せざるべし君はこゝに見る處ありて時の三重縣知事たりし岩村定高氏に商量を試み明治十九年水谷孫左衛門氏の後を繼き四日市製油會社を設立せり當時三重縣に於ては協同合資の事業未だ振はず殊に製油事業は幼稚にしてこれを製作するの技術未だ進歩せず此時に當り斯の如き大工業を企つその辛苦經營素より尋常人の得て爲すべき處にあらず君は剛毅にして忍耐力に富む則ち此新事業を進行せしめんと欲するも幾多の厄難に遭遇し竟に數萬圓の大損害を釀成したり此ときに於て君は前後に否運の大敵を受け殘壘を固守して奮戰突擊するも如何せん糧道を斷絶されて資金は欠乏し來れりこの機に於て九泉の地下に楠公を迎へるも旧羽を喚ぶも豈に一將の能く支る處ならんや謂ふなかれ一の成功あらざりしことを笑ふなかれ一の失敗を描きたることを渠の三瀧川河畔に黑煙天を張り機關の運轉四隣を轟かし今日に於て最も隆盛を見る製油工場は君か事業の落胤を成育せしめ長大ならしめたるものなるを知らずや

輓近文運の進歩は著大にして駿馬に鞭を加るか如く新聞雜誌の刊行飜譯著述の出版一々數るに堪へず倘しそれ往昔の如く楮皮製の白紙

を要せば其費と勞に堪へすして出版發行の業今日の進歩を見ざるとあらんか間接に文運の發達を助け直接に事業上の利益を收めんために設計されたる四日市製紙會社も一時は事業振はす利益擧らす社則紊れ規律正しからす社運日に非なり或る者は善後策を講し或る者は前途の方法に關して大に議する處あらんとせしも社内に纏綿せる幾多の弊害は排すれども竭きずその維持上に大困難を生し竟に製紙業を癈絶せしむるの悲況に陷らしめたり則ち倒産の大不幸に到達せり此時に當り株主の多數は何故に失敗したるか何に故に施設宜しからざるか速に積弊を打破し革新を斷行せすんば一日の猶豫は則ち一日の大患なりと絶叫しつゝ而て其革新的人物を獲ることに汲々たり目指す人は誰れかこゝに於て松岡忠四郎君は勇氣を鼓して大難の局に進めり改革は一瀉千里の勢を以て實行され總ての弊害を打破し社則を改正し業務を擴充し經驗に富み而老練なる技師を迎へ財政を整理する等者々改革の歩を進め數年間曠癈したる事業を再興し製紙業の隆盛を見るに至れり

而て君は三重朝明兩郡部會創立以來その議員に撰擧され常に議長の椅子を占有せり復た明治廿七年河曲銀行を創立し今日は取締役會長に任せられたり復た製紙會社代表人として四日市商業會議所會員となる以て君の聲望の高きを知らるべし

想うに事業經畫の難きあらすその經畫の目的を達するの難きにありその目的を達するの難きにあらすしてこれを維持しこれを擴充してれが利益を擧げこれが基礎を鞏固ならしむるの難きにあり一たび曠癈したるの事業を再興し社務を革新し竟に衰運を挽回して製紙業の旺盛を見るに至るは君の技能と云ふべし豈に他の能くする處ならんや

而て君は資性剛邁果敢一たび心に決すれば直に之を行ひ人得てこれ

を動かす能はず然れども日常人に接するや温乎藹實にして眞情掬すべし而て時に滑稽能く人の頤を解く徒に頤を解くを休めよ君が諧謔の中には必ず規箴を寓し人をしてその短所を反省せしめ復た長所を勵ましむ蓋し君の價値は茲に在て存すべし殊に風雅の思想に富み書畫。武藝。圍碁を好み最も烏鷺を戰はしむることに長し業務に疲れ繁忙に殺され神惱み体倦みたる後主客相坐して盤面に對し彼れ一碁我れ一碁或は一局を占領し或は一敗を取り戛々として白碁飛び黑碁跳りて輸贏を相爭うの快樂は他の譬て解すべからざる妙味ありと云ふ而て君は曲碁社會の錚々たるものにして已に初段の階級に位するの人なりと云ふ

清水恒太郎君

東海素と山水明媚の景勝天下に傳うこれ雅流の好むで躔を交へ遊人の競うて杖を曳くの處殊に濃州金華山の風光に到ては更に特種の氣韻を具へ羊腸たる峻坂備さに崎嶇を極めたり一たび塵襟を丘頭に拂ひ烟霞鳥聲と相親むに迨んでは悠々たる仙境。連岡縁を重ねて岸頭に臨み沃野雲に連ねたる長良川の流れ水澄み砂美しく夜は漁火を把て鵜飼に集ふ人殷萬畫は陽光に背を焦すをも忘れ綸を垂れ網を投し香魚を漁するものは以て半日の消閑を得べし洩々たる樂事長に塵世を脱離するの幽鄉此地は關西鐵道會社會計課長清水恒太郎君の鄉土たることを知らずや

清水恒太郎君は安政五年則ち紀元二千五百十七年十二月を以て岐阜縣美濃國大垣に產る七歳の頃より大垣藩學校に入學して十二歳に迨ぶ偶々政体一變して藩を廢し縣を設くに當り藩校もまた同時に廢止

せられ始めて縣立學校を興す則ちその校へ轉學して學科を專修しつゝ十六歳に至る明治五年の頃名村泰造氏の佛學校を同地に設立するや直に轉校して佛學を修むること數年當時漸く文敎その緒に着き師範學制新定の敎育令發布あり則ち明治七年岐阜縣師範學校へ入學せり日夜斯學に精勵し春曉秋夜未だ曾て怠らず殊に君は數理に長し初は開平開立より算木の用法等に達しこれより加減乘除運算迅速ならんことを努め其技熟し來ては活如として指舞ひ憂然として珠跳り或は刻むが如く或は軋るが如く數を算して錙銖を差はず學友算を問へば直に答へ答へれば則ち中らざることなし於是名聲嘖々として全校に響き常に儕輩を凌駕して嶄然頭角を象はしたり今日に於て君が會計課長の椅子に踞するを得たる豈に偶然ならんや蓋しその素養の存する處を推見すべし明治十年岐阜師範學校を卒業して大垣與文學校の敎授に擧げられ爾來專ら力を敎職に尽し且つ誠意を以て敎育の進歩を圖りて怠らざりしかば規律立ところに整頓し大に面目を刷新し就學の徒日々踵を接して來校せりこゝに敎職に從事すること三ヶ年余時と俱に人は變し殊に人は境遇に藉りて制せらる君にして自ら育英者たらんと欲するも時勢は決して許さゞりし時に君以爲く銀行なるものは國家理財の上に於ても私人經濟の上に於ても必要欠くべからざる要具にして殊に活潑なる商業上に關して資本の融通を圓滑ならしむるの機關たり然れども之れが設備なきため資金運轉上に澁滯を生じたために商機を失うて意外の損害を蒙ること多し故にこれを興さんものと現任大垣商業會議所會頭戸田鋭之助氏等と相提携して大垣國立銀行の設立を企て全く其功を奏したり時はこれ明治十四年の頃なりき而て君は一方面に新天地を思想界に求めたり則ち大垣英學校を興し幾多後進の士を誘掖薫陶して人材を得んと欲し大學校出身の士にして高知人前田元敏氏を聘し來りて敎授に補し相俱に立て講

堂に臨み嚴寒炎暑の候と雖も毫も意らず其子弟を指揮するや頗る嚴肅にして更に假借する處なし然れども師弟の間は城府を設けず相親ひ一家の如し今日に於て大垣中學分校に擁せらるゝに至るもの焉ぞ君か施設の餘響ならざるを知らんや

それ青年有爲の徒婦を娶るがために或は家事に羈束せられて遂に素志を挫折するもの尠からずと雖もこれ撰擇其宜を得ざるに職由せずんばあらず其婦にして能く所天を助け家事を整理して內顧の患なからしめば蓋しその素志を貫徹すること明なり之より嚮き君は常に想へり……人智の發達文學の進歩駿々乎として駿馬に鞭を加るが如きは近時の現象にあらずや此發達進歩に隨作せんと欲せば必ず智識の泉源たる帝都に遊學せざるべからず……と時はこれ明治十七年一大決心を定め家族を伴うて遊學の途に就き東京專門學校に入學し政治科英學科を兼修せり朝は講堂に出て洽く古今の書史を獵渉し東西洋に於ける政治の得失國家興亡の素因各國歴史の變遷風俗習慣の等差を研精怠ることなく夜は家に在り形影相隨うが如く一家團欒苦學に呻吟するを忘れて家庭の和樂を感得せり斯くの如くして三たび春花秋月夏雲冬雪を送り迎へ明治十九年に至りてその科業を卒へたり

曾て聽く英國詩界上に湖國の美を謠ふて老朽無爲の古文派傳奇派を壓倒しこれに代ふるに健全なる現實派を以て表はれたる詩界の新開山……革新の詩人と稱せられたるヰリヤムウヲルヅウヲルス氏は其最愛の妹ドヲ孃を伴うて歐州大陸へ遊學せしことあり清水君が渾ての家族を伴うて東京に遊學せること寧ろ斯類なるなからんや

國益の親玉を以て自嵩自賛したる岩谷松平氏の設計に係る帝國工業會社も利益擧らず社則紊れ信用地に落ち事業振はず恰も人生の夕に立ちて死を待つものゝ如く危機實に一髮此際に當り前島密山中輝之助の兩氏出て社運離落の急を救ひその弊害を革新するの人を覓むる

酷だ切なり君は撰ばれて其難局に衝り社務に冷淡なるものをして熱中せしめ中止したる工事を再興せしめ惰者を鞭ちて活動飛揚の志を起さしめ而て正に潰敗せんとする會社を整理し大に社運挽回のを基成せり之ぞ君が實業界へ手腕を揮うたるの第一踏石なりき尋て前島密氏關西鐵道會社々長に擧げらる時は創業に際して頗る敏腕の士を要す再び君は前島氏の嘱に藉り帝國工業會社を辞して關西鐵道會社に入り會計課長の椅子に踞するの倖運よ到達せり

時はこを明治廿四年大に實業社會の萬目を聳動したる第三十三國立銀行の驚惶問題に關して玆に君の活腕は揮れたり則ち關西鐵道會社株金東京拂込の分は全銀行に於て取扱ひ來れり若しその銀行に一任したらんには忽ちその損害關西鐵道會社へ波及すべし此機に當りて君は東京へ出張してその銀行に臨み臨時の保險策を提出し萬一の變を推測して從來の格例を打破し株金拂込の分は自己の直轄に歸せしめんとす於是管理者はその越權を憤りしも頑として行員の異論を排し總ての故障を打破りて進めり則ち拂込金拾三萬余圓ハ行員の手を想經へずして君が一手に纏め得たりその威勢に壓せられ行員唯々として手剛き仕打に聳動せられて驚然たりしとぞ君が先天的理財の思に豐富なるこの一事を譚りて餘りありと云ふべし

想ふに清水恒太郎君が全幅の精神は唯々會社の財理にあり君が滿腔の熱血は確に社財の半毫一厘をも他より手を觸れしめざらんことにありき君が眼中會社あるを知て身を忘るゝに至りしは實に感うべからざるの事實なり關西鐵道會社をして富盛今日に至らしむる固より一人の力に成れるに非ずと雖も君が能く輔翼したるは最も大なり見よ社財動機の潜伏處たる第三十三銀行を相手として大挑戰を試み而て保險策を提出し渠をして無理の注文に應せしめたる如きは如何にその擧動が嚴酷にして猛烈なりしか恰もこれ吭を絞して背を拊つの

妙案たりしを知らずや君は則ち威力を逞うせり然れども銀行を困らしめんがために然るに非ず會社の財權を紊亂せしむるの非を看取したるがため餘義なく威力を逞うせり而て會社をしてその恐慌を免れしめたりこれ活眼なるがため敏腕なるがためなり君の如きは關西鐵道會社の會計課長として眞個に理財の器を具へたる人と云ふべし

安藤新兵衛君

時勢に後れて一日の小康を貪り汲々として祖先の遺業を營み而て錙銖の利を店頭に爭ひ徒に社會風潮の逆境に處するものは如何に家裕かに財富むと雖も俱に明治の商業を譚るに足らず唯それ商業の趨勢を達觀して卑屈なる舊商人の故態を脫超し其陋風を排き而て進取の途を求め敢て活動の商業に手腕を揮ふものは始めて明治商人たるに恥ちざると云ふべし蓋し安藤新兵衛君の如き一方に祖業を承けて能く家聲を擧げ他方には物價の昂低最も頻煩なる投機會社の管理者と成る實にこれ四日市商業界の俊兒と言はざるを得ず敢て其經歷を問う抑も如何なるものあるか請ふこれを說かん

四日市取引所理事安藤新兵衛君は伊勢國四日市港上新町の人にして天保七年則ち紀元二千四百九拾五年十二月を以て產れ其家は代々砂糖及紙商を營みたり君は幼名新七と云ひ弱年の頃堀木忠良に追從し

て漢籍を學びたり殊に十五六歳の頃より最も圍碁を好み斯道の名師原忠則及び神戸の人梶川昇の門に入り一白一黒相戰ふの術而て千變萬化奇正錯出の秘訣を究め大に出藍の妙ありしと云へり而て一日も家業擴張の念を放たず能く商務に從ひ努力經營比年家愈富む其始て公共事業に與りしは實に明治元年にして南町組年寄役に推され爾後三十年の久しき今尚ほ名譽職に居るもの實に君の職業德望竟に港民の仰ひで歇まざる處となれるに由らずんばあらず而て明治五年九月四日市町副戸長に任命し尋て學區取締に兼擢し或は學事の發達を計畫し或は行政事務の進捗を企圖してこれがため公共事務の發達を資けたるは言ふを須たず明治七年八月第一大區一小區副戸長に轉任し三等給を下賜されたり明治八年二月四日市上新町用掛に任命し專ら公務に努力し仝九年八月第十九番神風講社取締と成る

四日市港は全國有數の米穀市場にして其來散頻煩なるにも拘はらずこれが機關たる定期米取引所の設立なきを以て君は夙に之を憂ひ有志者と相謀り明治九年取引所新設の運動に着手し或は縣廳に迫り或は主務省に請願する等百方精力を盡してこれが願意を貫かんとせしも時來らず機熟せず竟に其目的を達することを得ざりしとは雖も爰ぞ知らん他日取引所設立の認可を得たるは此時に於て其願意を達する道を拓きたることを

明治十四年二月備荒諸蓄金穀取扱規則施行に際して君は公債証書及米穀購入賣却評價人に任せられて其局に當り仝十五年一月三重郡第一學區學務委員に撰擧され專ら學事に奔走せり仝十七年七月上新町撰出町會議員に推撰せられたり明治二十年十一月所得稅調査委員に擧げられ仝二十一年二月一等稅區會議員に推されたり尋て仝年五月に至り學事委員に再任せり而て國民の力によりて國民自ら治むるの政体則ち自治制の實行に際しては君は四日市町會議員に撰擧せられ

たり時にこれ明治二十二年四月なり其議場に起つや濫に言論を弄はず最も沈默寡言を守る而て亦た微の中に權畧を講して他議員を籠蓋することを作さず能く港民の利害休戚を査覈し最も公平に事物を觀察し其特色は精苦にして倦まざるにあり或る議員は胡蝶の如く輕々として空を飛び往けり君獨りその足を擧ぐるや重くろの踵を着けるや堅くその趨るや步武整々たりこれ君が默然として議場の大勢力を得る所以なりと知らずや明治二十三年八月所得稅調査委員町村選擧人と成り明治二十六年八月に至りて四日市商業會議所會員撰擧委員に任し尋て商業會議所會員に撰ばれたり

取引所改正法案發布の聲い端なく四日市港人士の皷膜に一大打擊を加へたり茲に於て取引所設立は唱導され君は有志者と相議してこれが請願に着手せり時は明治二十六年なり然るに地區撰定上よりすれば縣下桑名取引所の如き繼續既得權あるを以て僅かに三里餘程の四日市に新設せんとするは頗る至難の業たり當時君は發起人にして奔走盡力至らざる處なく或は縣廳へ請願し或は農商務省に就て陳情する處あり或は期成同盟會と聯合し[illegible]の一意を貫徹せんことを努め東京に上ること前後三回に達び最も熱心に最も誠實にこれが大運動を試み竟に四日市米穀取引所の認可を得るに至れり仝年十一月取引所理事に撰任されたりこれ君が能く創業に力を伸べたるの功績ならずとせんや

君の性謹嚴にして而て公共事務及實業の諸問題に對して深く大言壯語を避け寧ろ實着にして控目に過ぎる程辭令を愼み言責を重んじ所謂無言の中に他を警發して何となく四日市に勢力を有する所以なり居常節約家倍々富て敢て侈らず而て公共心に富み凶年には米を出し歉歲には金を抛ちて貧民を救ひ或は教育費に金圓を寄附し官ために木盃を與へて之を賞す而て君は常に園碁を樂む倘しろれ業務繁雜に

して精神疾勞せし時は盤面に對して烏鷺の爭を試び所謂疲れを拔く
ものなり一黑一白、目たる三百六十有一而てその相戰ふに當りて千變
萬化奇正錯出運用の妙究極する所なし實に斯道の名將たり
其許圍碁熱心修業無懈所作稍進候依之今般同僚遂會議向後對上
手三碁子之手合初段令免許之畢稍以勉勵可爲肝要者也

假免狀如件

萬延二年二月十日　　十四世　本因坊秀和

篤志研精技益昇進群衆に超越す因之第八級の品位を授く倘希く
は勉勵上達あらんことを

明治二十年五月十五日　　方圓社

亦た以て斯道の素養を窺ふに足る

鈴木廉平君

戰後の經營はこれがため費す處の國費亦た隨て多きを加へざるべか
らず而て國家の財源を擧ぐれば酒造稅の如き決して第二位に降らざ
るべしさすれば酒造業の發達を企圖すると否とは大に國家經濟の消
長に關するなからずとせんや蓋し學說を探り實驗に徵すこれに從ふ
ものは興りこれに逆ふものは癈つ此理自ら確乎動かすべからざるの
眞理あり顧るに我邦釀造界概ね既往の姑息法に拘泥して徒に眼前の
錙銖を爭ふこれ事とし自ら謂へらく我に幾十年の經驗なるものあり
學說敢て顧るに足らずと恰もこれ猫族か草露を嘗めて胃病を醫する
が如きもの漸く俗をなして移すべからざるに到らんとす噫釀造界の
前途知るべきのみ所謂盲經驗事を謬るもの仍ちこれなり誰か能くこ
れを理に考へ實に徵し以て學說と實驗とを調和するものぞ特り鈴木
廉平君が釀造革新家として斯業に努めたるの蹟歷々として見るべき

もの蓋し少からずとせんや

銘酒日本心の醸造家鈴木廉平君は安政五年則ち紀元二千五百拾七年四月を以て伊勢國三重郡四日市町濱一色に產れ幼名祐太郎と稱せり往古酒造株は一種の世襲財產となり更に酒造業を創むるは實に至難の業たりしか文化七年十二月始て三百六十石の酒株を讓り受けて酒造場を建てこれか創業を見る爾來伊勢流及び問流を以て釀造を試みつゝありしが明治十七年に至り灘流及伊勢流の二醱を應用して稍々釀造法を改良し努力經營一日も家業擴張の念を放たず熱々酒造業の實狀を顧るに釀造術の發達遲々として學理上の研究を欠き同一の釀造場にして製熟物の品質多くは一定する能はず變敗腐造の災害に罹るもの頻々として至る君は夙にこれを憂ひ心を潛めてこれか策を講することと數年適々明治十九年三重縣酒造改良協會の設立あり尋て附屬試驗場を起し農商務技師理學士肥田密三氏を聘して其任に當らしむ君は明治二十年二月その見習生と成り或は學理を質し或は事實に徵し製麹の方法酛の攪伴醪の成熟法及び貯藏中火落の如何等互に入り細を探り非常の奮勉を以て最も熱心に研究せしため大に造詣する處あり明治廿一年五月に至りて全く修業するを得たり同年五月數名の同業者と相計り研釀會を設立し工業學校卒業生高野某を聘用して益々學理を應用することに全力を盡し醱酵の長を採て新說の短を補ひ研究多年寢食を忘れて自ら釀造操作に從ひ專ら學理と實驗の調和を計り竟に佳良の芳醇を釀造することを得るに至れり第四回內國勸業博覽會の開設に際し家釀日本心を出品せしに審査の結果として進歩三等の賞を得たりその薦告に云へり

力ヲ改良ニ用ヒ其品位精良香味色澤共ニ佳良ナル飲料ヲ出スニ至ル其進歩著シ

と斯の賞牌を得る豈偶然ならんやこれ君が多年實踐躬行斯理を究め

斯術を研きたる苦學經營の凝結体のみ

一方に於ては自家の利益を守護し擴張するに汲々たる君は他方に於て綽々として公共のために其力を盡すの精神を有し明治二十五年四日市町々會議員に撰ばれて其任務を努め仝廿六年八月四日市商業會議所會員に推され尋て仝會議所理事及會課部長に推擧せられ營々孜々として商工業の開發を圖り盡力の功頗る見るべきものあり明治二十七年の末端なく四日市開港問題の議起るやこれが委員と成り奔走盡力到らざる處なく大に公共心を擴揮したり尋て明治二十八年學務委員に擧げられて其任を盡し更に仝年三月町會議員改撰に際し一級撰擧會にて當撰の榮を得たり

君町會に臨む電眼雷辨の下一言の裡容易に人を活殺するの長技あるかこれを知らず殊に沈默靜坐徒に他の長舌流と俱に俱に辨を爭はず偖おそれ一問題出て甲論乙駁互に相爭ひ甲は乙を罵り乙は甲を貶し議場沸鼎容易に底止する所を知らず此時此際甲を宥め乙を喩し必ず調停を試むる等四日市町會に斯人あるも亦た必ずや慨むべきに非ず恰もこれ釀造上の學理と實驗を應用したるの手腕あるが如く君は確かにこれ町會の調和劑と云ふも誰れか首肯せざらんや

廣田久次郎君

噫色の美なるものは衆女の妬む所となり智力の秀なるものは衆人の妬む所となる廣田久次郎君か鄙人のために誹議せらるゝ處は則ち君の智力の超群にして所謂亂世に治を講し治世に兵を論するの胸臆あるかため往々世人の時度し能はざるものありて當世に容られざればなり然れども常識を具ゆるものい必ずや君か稀有の智力あるを知らざらんや

四日市銀行支配人廣田久次郎君は安政五年則ち紀元二千百十七年十二月を以て三重縣伊勢國四日市港袋町に產れ始め巳吉と云ひ後に實之吉と改め竟に實父の名を襲き久次郎と稱せり幼年の頃より學を好み森本某に就きて讀書習字を學ひ復た堀木恥堂岡崎要助及び孤野藩士早川忠德に從ひ漢籍を研修して稍々造詣する處あり更に慶應義塾卒業生五味直次郎に就き泰西の新智識を求め復た新學問の奥義を傳習しつゝありしも當時の風習は文を賤め會々書を讀むものあるときは人皆これを擯斥す君[illegible]俗に迷はされて竟に君に停學を命したり斯の如くして[illegible]方を[illegible]る君は年十八にして第一大區一小區書記に任し尋て明治九年十月に至り第一大區一小區副戸長に累進し仝時に土木取扱を方兼任し能く事務を調へ能く職任を盡し世人その技能に服せり職に在ること僅に三ヶ年餘偶々病に罹り明治十一年一月竟に職を辭したり

是に於て君は商業に志を立て叮嚀反覆精考熟慮すること久し時に九鬼紋九郎氏君が技能を愛して措かず親しく商業の方針を授け賣買取引の要を說き亦た市場の商況、商品の眞贋を鑑識する等の方法手段を諭すこと甚だ至れり盡せり茲に始めて意を決し明治十一年肥料商を開き一意以て其業務に從事し頗る黽勉拮据怠たらざりしため華主は信任を置き取引日に頻を加へ家運の繁榮を見るに至れり是蓋し九鬼

氏提柳の力ありとは曠職として君か經營の宜しきを得たるに由らず
んはあらず君は常に云へり……九鬼氏は智識の父にして復た商業の
母たる人なり……と君の如きは業成り名遂げて能く其主を忘れざる
の人たらんこれより後君は公共事務に奔走し明治十六年勸業委員と
成り仝十七年袋町々會議員及び四日市町聯合會議員に撰擧されて町
民の權理便益を伸張することを勉め明治廿年以來三重朝明郡所得稅調
査委員に擧げられて其任務に當り仝二十一年袋町學事委員に任し仝
二十二年市町村制實施に際して四日市町會議員に當撰し仝廿五年三
月半數改撰に由り一級撰擧にて再撰の任に當り理事者の弱點を肥暴
剔抉し大に反省せしむる處ありて更に倦色を表はず
明治二十六年司法省の命を奉して商法施行條第三十五條に準據して
破產管財人に任せられ仝二十七年に至て病に罹りこれを辭したり仝
廿六年四日市商業會議所會員撰擧委員に擧けられ導て仝商業會議所
會員を撰任され專ら商工業の改良發達を計りつゝあり
殊に明治廿五年縣會議員撰擧に際し某候補者の資格有無に關して大
に議論を戰はしたる事柄の如き君が硬舌を弄して理論に訴へて法文
を解釋し事實に徵して無理を下し鐵を切り石を斷つの論を吐き某郡
司を驚倒し遂に有資格の勝を制したる如き實に君か經歷中に於て最
も華やかなる得意的の時代と言はざるを得ず蓋し君の手並は概して
斯の如し
商業に資本を融通すべき機關として四日市銀行の組織は明治二十九
年一月を以て成る君は則ちその支配人に任せられ專らこれが行務の
衝に當れり必ずやその經營宜しきを得るならん
君か事物に接するや少くとも智力を應用するに熱心にして靜かに已
れの爲すべき處のものは如何なる事なるやこれを爲すには如何なる
手段を以て行ふべきかを考へ胸算已に成れば直に其目的の中心を射

擊せんと欲すこれ君は敵を設けざれば其全輻の伎倆を發する能はざるの所以にしてその手腕は敏なり尖れり鋭し然れども其黒は極めて大なるか君か一派の羽翼に止りて敢て力を他に及ぼさゝるを見れば君は到底半數の人にして全數の人に非ず彼處に大醇あれば此處に大疵あり君の如きは豈に所謂智力身の崇りを爲すものに非らざるか

森寺喜兵衛君

方今吾四日市港の中に於て最も富豪にして最も老舗を以て稱せらるゝもの必ずや指を井倉屋に屈すべし蓋し他の商家に在ては一時富盛を以て知られたるもの尠しとせざるも長きは百年短きは數年にして倒産衰頽し能く數百年間豪富の地礎を固め毫も衰頽の色なきのみならず家運益々段盛を極めるもの、此一家の如くなるは稀に見る處なり抑も守成者たるものは多く祖先の遺産に浴するため此に於てか幾多の慾望耳目の觸るゝに從ふて遂に奢侈となり淫樂となり放逸となり以て其産を破るか或は見識足らず叨に幾多の事業に干與して遂に其財を蕩盡するは商業社會の常套か敢て傳來の富貴に安んせず能く其遺産を利用して其機を誤らず益々殖利の道を講して能く先業を失墜せざることを努め能く守成の畧を保つもの實に森寺喜兵衛君に於てこれを見る亦た井倉屋の富榮を久しきに傳ふるの偶然にあらざるを

知り得べし

仰も其家系及び商業の沿革を按ずるに今より二百十三年前即ち貞享年間……紀元二千三百四十六年を以て第一世喜兵衛氏始めて商業に志し干鰯業を創めたり氏は深謀遠慮未然を察するの睿智豪膽果敢事に臨みて決するの明正實廉直約を締して背かざるの信忍耐不撓難に遇ふて屈せざるの勇を具備し一たび寶買取引を試むるときは向ふ所風靡して勝算違ふことなく愈々商利を擧げたりしが元録十三年に至り新に種油業を開き益々商略を運用して利を擧げ富を占め方今森寺家の基礎は此人に藉て建築せられ子孫百世の業を垂れたれば永くこれを承繼するに至れり而て現代森寺喜兵衛君は弘化四年則ち紀元二千五百六年を以て伊勢四日市港下新町に産れ幼名壽三郎と稱せり其實產巨萬に富むと雖も敢て若侈に流れず亦容易に經驗なき新事業に手足を投ぜず能く祖先の遺業を守りて種油取引に從事しこれを近江

伊賀の各地に仕入れて東京及び北海道に輸出して販賣を試み而て肥料の如きは其用產地たる北海道より輸送し亦り誠實と勤勉とを以て販賣するため深く華主の信任を得て家運愈々隆盛に赴けり

想ふに井倉屋の富榮を久しきに傳ふる元より子孫の能く祖業を守りて失墜せざるに由と雖も抑も家則を立つる其宜しきを得たるに基かずんばあらず今ろの家則を聞くに一方には油業の利益を擧げ他方には田地より收むる小作米に由りて資產を增殖するの一法にして倘しそれ商業上の失敗を釀して危殆の淵に逼るときは田地の收入を以て家計を維持し或は天變地異のため所有の田地荒蕪に歸することあれば油業の利を以て生活を支ふる等實に萬全の家法を設けたるは大に家名を百世に傳ふるの所謂なりと云ふべし而て君能く人を用ひてこれを奬勵して店務を委ぬ支配人大矢清助氏その主命を奉して萬事を指揮し管伴杉野榮藏伊藤豐太郎の諸氏勤勉と誠實を以て晝夜寒暑の

別なく各々擔任の業務に鞅掌し益々商勢の盛大を見るに到る……
君平生身を奉ずる極めて嚴正常に儉素を守り微細の金錢と雖も濫に費さず然れども教育衛生隣保恤救等のために資を捐つるの多く官より賞狀賞杯の下賜を受ること實に枚擧するに遑あらず殊に征清の役に際して貳百金を投して陸海軍恤兵部に献納したる如き亦た以て平素報效の志敎きを見るべし

實務家經歷譚 第三編

田中好謙君

勝海舟翁曰く……人を看るの標準は自家の識量如何に存す……と余は窃に以て知言と成す渠の大人後才の胸中は汪洋たる幾萬頃の大波瀾を湛ふ區々たる尋餘の鉛錘を以てこれを臆斷する如きは渠の大人後才をして無言の大痛恨を呑ましむるもの幾何ぞ試に見よ一の大なる水車の輪は必ず他の小なる車輪と協力して運轉せるものとせば此大小の車輪を廻轉せしむるの水勢は何れの處より濺き來りしか蓋し深山を潛り幽谷を過ぎ落葉に咽びて流れ出でたる泉源の涓滴にあらずや斯く觀し來れば人生の經歷寧ろ此類なるなからんや余は恒軒主人田中好謙君の實歴史を編まんと欲し則ち往を考へ來を察しこれを前後の情勢に按しこれを身邊の事態に照し而て現在地位を論し……

蜉蝣撼大樹……の轍を踏んと欲する所以なりと知らずや

四日市收稅署長田中好謙君は舊津藩の士にして恒軒と號す嘉永四年則ち紀元二千五百十年十月を以て三重縣伊勢國津市西浦の自邸に產る其幼時に於て思想を鞭從するため藩學校へ入學せり時に年僅に七歲甫めて讀書の辛酸を嘗め苦學のために戰はざるべからざるの必要に逼まられ四書五經の句讀を享け無邪氣にこれを誦讀しつゝ十五歲に迨び較々素養を彰はし來れり轉して土井豪摯の門に入る翁は素とこれ古人の糟粕を嘗むる蛆詩人たらず先聖の書冊を喰う蠹魚學者たらず自個の思想より一生面の學派を建設せんとしたるの士而て繻子の被布を纏ひ嚴然として虎皮に坐し昂然天下の師を以て居るの鄕先生たらず寢衣のまゝ讀書するは僅に体面を損するのみ敢て讀書の本領を害するものにあらずと信したるの人故に時に諂ひ人に媚びず而て時勢を看破するの眼光は當路者の怒を招くを恐れざるの人なりき

されども子弟に對しては城府を設けず摯ろ眼中師弟なきが如し則ち君はその敎を享けて百家の經史を修業しこの鐵型中に陶成せられしため純潔なる青年の心腦は利祿を貪るか如き卑劣心を藏する能はざりしなりこゝに修業僅に二ヶ年余

討幕の戰局漸く收まり時務を知るの新必要は國民の頭腦に淋漓鬱勃たる活氣を添へしむ殊に有爲壯年の士は層一層綜ての元氣をこゝに集注せり則ち坐する君は起ち起ちたる君は奔り物質界の知識を探究せんため遠く京都へ出て津藩屋敷へ寓居し朝に古人の醒言に接し或は大家の敎を享けて思想上の糧食に替へタに各藩の壯年輩と相往來して修學の難易を談し時事を論し或は前途の經論を撰するなどこゝに滯留殆んど二星霜余にして故鄕に歸り來れり芭蕉の葉の影涼しく豆花青麥の中に在る一塾これ君か二年前の記憶はその校堂を見るとと共に復活し來れり則ち再び土井豪摯翁の塾へ入る嚮きに在塾の頃無

邪氣に誦讀したる書藉は漸く快味を覺へ來れり塞燈火盡きて灰冷なるの處霜雁月に叫んで人靜なるの時豪藝翁を圍て三々五々の子弟危坐して其教を享く君は塾生中夙に頭角を彰はし頗る才器を以て知られたり藩主藤堂公これを聽きろの才能を愛す而て隨伴を命せられ明治三年東京に登る滯京僅に半歳余にて歸鄉し直に藩知事の內政に參與するを得たりこれ君か官職の歷史を刻みたるの發足點なりと云うべしその職を守り其事務に執掌すること殆んと四ヶ年余明治十二年郡區改正の機に當りて名張郡の書記に任じたりこれ崎嶇たる官途の始め能く事務を截斷し能くその職に勤勉せり而て君は斯の雜駁なる事務に纏繞せらるゝにも拘はらず胸中常に詩文に富み而も飽くことを知らざる文界の貪慾家たり茲に名張客中の作を把り來れは

縱無風土似阿津　有酒有書不患貧
名張客中且迎春　只是冠廉求區得

亦た以て如何に思想の淸廉にして俗吏界を距ること幾百里なるかを知り得べし而て君は玉と瓦とを分つ能はざる鈍眼者の下に働くの人にあらず進取の希望なき淵に漂泊するの士にあらず則ち翌十三年七月職を辭して東京に遊び久しく忘れたる同窓の友……今日天下の才物と稱せらるゝ舊知を訪うて古を談し今を議し或い懷ひを吟咏に寄せ或は興を臨池に遣り漫々として戲れ半歳の閑日月を都會の風光に銷盡して鄉に歸へる

地は之日本五港の一而かも關西の咽喉たる兵庫縣へ出仕して勸業課へ職を執る時はこれ明治十四年の春殊に生產業の發達したる神戸兵庫の二港を支配したる勸業課なればその業務は戚々と去て山積すこれを處理するの勞は他縣に倍を見ざる處君は能く勤勉し善く生產業の方針を指點し而てこれが實行を促すなど大に職務を盡したりされども君は官吏として從順にして長官に役せらるゝの俗吏にはあらざ

り自ら信ずる厚くして期する所ありしため到頭時に蹈ひ人に紹るものにあらざりき時としては己れの思想を吐露し群小の忌機に觸れざるを得ざりきこれ豪邁剛の感化力によりて然るなり而て亦た君が自重力の強大なる所以なりと知らずや君は明治十五年二月兵庫縣に辞表を提出して職を退き暫く民間に流れ來れり其地を去るに臨み摩邪山の下湊川の滸楠公の舊蹟を訪ふて一掬の涙を濺き來り則ち筆を把りて

楠子祠前夕日黨　行人下馬拜忠墳　東風吹起湊川水

凝作摩邪山上雲

の悼詩を歌うて去る復た以て氣品の超群にして詩眼の秀穎たるまさにこれ情悲んで涙落るの感なき能はず君は幾時もなくして復た杖を東京に曳き昨は都門の名士に新交を結び今は舊知たる同鄕の友を歴訪して時事を談し詩思を圖はし而て柳少將牛場卓造小山正貳等の諸氏と相謀りて勢賀會を組織し俱に鄕を同うし共に國に產れたるものは識ると識らざるを問はず一堂に相會し交誼を全ふし懇和を旨とし或は文人雅客を相伴ふて風を喚ひ月に嘯びて懷ひを詩界に馳せ社會外に脫却して天地の美を謠たり

茲に於て新時期を喚ひ起したり則ち明治十六年七月三重縣收稅官に登用されこの年十月桧坂へ出張を命せられ在任こゝに一ヶ年半明治十七年再轉して四日市へ出張を命せられ復雜なる稅務の局に衝り解を擧げ力を傾け大に職務と戰ひ明治十八年四月收稅本部へ歸任し幾時もなく租稅檢査の監督として三重縣管內を巡視せり然れども君は如何なる旅隙にも突擊して濫に過失を擧ぐるの得策ならざるを信したり倘しそれ職務上の過失を看破することあれば諄々として其非を喩し以て深く後來を誡しまむるにあるのみ渠の樹木を斂へて森を忘れる如き鈍眼的俗吏の行動は敢て君が爲さゞる處にして赤誠を僚屬

の胸底に置きて勞を配つの手段を執れり斯く勤勉して其在職五ヶ年余明治廿二年七月收稅部松坂出張所々長に轉任せり今や君は滿帆に風を姙ませて官海を奔馳するの好運に接し明治廿六年十一月四日市收稅署長に榮轉して今日の職に從事せり

……恒軒主人は其容姿温厚篤實にして深沈寡言苟も動かず一見すれば其外柔順にして小羊の如く容易に親むべしと雖も其内猛烈にして雄獅の近くべからざるが如き氣あり君は雄念堅固信心不拔なり而て自ら信ずる頗る厚く自ら爲す處言う所一として是認せざるはなしそれ草の中に於ては其羽を青くし沙漠の裡に於ては其羽を黄色にする蝗の智慧を有するは官吏の常套然るに君は身を官吏にして蝗智的官吏の素養を欠けりこれ自保に巧みならざる人と言はざるを得ず其大事を決するや豫め思慮を勞すること幾回また幾回必成の心算あるにあらざれば決して言語に發せざるを常とせりこれ……

人と爭はゞ抓まんより寧ろ譲け……古諺を解するがためなり殊に收稅事務の如きは最も愼重の考慮を要す倘し一たびその道を過つときは天下の收稅者をして忽ち疾苦を感せしむることあり故に君は三思して一言をなすの深重を旨とするは蓋し收稅の要衝に當るがためなり一たび自家の意思に於て決する處あれば千輝萬燒の情實を直截して咄嗟の間に猛斷敢行すること恰も生命ある血液ある裁判的器械と云うも可ならん乎

吉田千九郎君

蠑螈い其殻を以て天地に擬し蓑蟲は其外包を以て世界と認む蓋し祖先の遺産に寄生して以て策の得たりと做すもの豈ゑ倶に明治の實業を譚るに足らんや此機に當り敢て傳來の富貴に安んぜず能く其財力を利用して其時機を誤らず深く經濟界の形勢を觀察して倍々殖利の途を講究し以て吾港商業社會の革新を謀る如き其氣一に何ぞ快なる其膽一に何ぞ豪なる古より能く戰ふものは靜に處て動に處らずの格諺把り來りて吉田千九郎君の事蹟に徴せば更に其斬新的切なるを覺ふ想ふに閑棲多年優遊として神を養ひ氣を舒べ娛樂を求るに忙はしき君は戰後經營の大勢に促され一擧して新事業の要務を双肩に擔ふて起てりまさにこれ一たび動けば千仞の山に圓石を轉じ萬丈の谿に積水を決するの快なくんばあらず

四日市銀行頭取吉田千九郎君は元と伊勢桑名の人にして安政元年則

ち紀元二千五百拾三年五月を以て產れ緒名を新之助と云ふ幼年にして舊桑名藩士加藤泰得に追從し漢籍を修め頗る造詣する處あり復た數理家松井七太に就き算術を學ぶ最も數學を好むと厚く研磨愈々力む殊に算木亦た筆算に長し當時君は數理に於て獨歩の地を占めたりと云ふ

敎ゆるは學ぶの半ばこれ吾人の忘るべからざるの要語にして自ら學ばんと欲せば人を敎へよの趣味を解したる君は明治七年町田武須計高松範重等と相謀て桑名智新學舍を起し數多の青年子弟を集め彼等の品格を高尚にし彼等の能力を增し彼等の智識を啓き彼等の心志を活潑ならしめ文明世界に釣合ふたる文明人たるの素養を具へせしむるの目的を以て頗る誘掖敎導に努めたり

當時種油業の巨擘として四日市港に雄飛し其名京濱の間に嘖々たる者は皆問はずして吉田家なるを知る君は明治十年に至り則ち其家を

製き業を承け能く商務に拮据經營し復た雙親に仕て至孝大に家道を振興し後に名を改めて第三世吉田千九郎と稱す爾來其業務に勤勉せり明治十一年十一月三重縣博覽會の擧わるゝや衆に卒先して種油を出品せしに審査の結果として

性質尤良善其製法宜キヲ得タリト云フベシ審査尤廣シ

これ博覽會の薦告文にして吉田家製油上の功績を賞したるもの蓋し名譽の到にあらずや以後益々盛に製油してこれを東京に輸送せり當時舍印の種油は賣買取引上の標準商品として油業界に歓迎せられたり復た以て如何に優越の種油たりしかを確知すべきなり

明治廿二年君は製油法の改良せざるべからざるを察し三重朝明鈴鹿河曲四郡の仝業者と共に商議を凝らし而て規則を設け地方廳の認可を經て油業組合事務所を創立し專らこれか改良に從事し君乃ち撰ばれて其理事長と成る此時に當り各郡の製油業中或は粗製濫造以て一時の奇利を貪るもの續々輩出し種油の信用地に委せんとす君は大に憂慮して措かず百方力を盡してこれが挽回の策を講し從來の製造及賣買上に存する幾多の弊害を矯正し殊に湯澄及び他物の混淆等を防き大にこれが改良に努力せしは洽く世人の記憶する處なり

蓋し自己の利益を計りて他を省みざるは滔々たる商人皆然り特り君は私家の利益を擧ぐるのみならず大に公共事業に斡旋盡力至らざる所なく明治十二年町村會創設に際してその議員に撰擧せられ最も共同の福利を增進することに努力せり明治十三年田中武兵術等と相伴ふて神戸へ赴き商業講習所に關して幾多の調査を試みて歸へれり明治二十一年四日市學業委員に撰定せられて專ら教育の普及を謀り尋て明治二十一年以來三重朝明郡所得稅調査補欠委員に擬せられ今日に至る爾來町會議員改撰に際して盡く再撰し殊に市町村制實施の後も其任に擧げられ昨廿八年に至る其間公職に從事すること實に拾有

六年これを知るもの誰か亦た君か辭望の熾なるを覺らざらんや

地理を知るの名將は常に先づ戰前に當て務ひる所商業も亦た然り其事業を經畫せる前に當り十二分に敵を知り戰の場所を探究せざるべからず蓋し新事業を經畫するには其時機を撰ばざるべからずこれに從ふものは興りこれに逆ふものは癈つこれ確乎動かすべからざるの眞理ならずとせんや惟ふに戰後の經營は頗る要務多端を覺ふ殊に今日はこれ商權を外に伸長し事業を內に興すの機こゝに於て乃ち金融機關の要を見る多年窃に新事業の撰定と時機の成熟を俟ちつゝあり

し君は活躍せる企業心に大打擊を加へられ竟に起て銀行事業創立の運動に着せり時はこれ明治二十八年十一月なりき好案は幾多の勢援者を得て茲に創業の緒に就き明治廿九年一月四日に至り四日市銀行を開業するの快擧を見たり君は則ち擧げられて其頭取に任し日々店頭の帳場に坐し百般の行務盡く親ら指揮して制を定め規を立て確か

に秩序を整へ以て今日の營業を見るに至れり

君は平生繁劇の商界に立つと雖も胸中自ら閑日月を存し頗る書畫骨董を愛翫し閑あれば則ち此等の事に身を委して以て其雅懷を慰ひ復た公共の事に關して寄付義捐救助等に金穀を寄贈せること前後その幾回なるを知らず相生開榮二橋梁架設に際して特に多額の金圓を義捐し以て之が費を援く之を以て官銀盃を賜ふてこれを賞す復た榮と云ふべし昔者子產輿を以て溱洧を度らしむ人尙ほこれを賞して仁なりと云へり然らば君の如きそれ將たこれを何とか云はん

後藤榮三郎君

夙に工業思想を抱持し確かに時勢の推遷を俟ち土木振作の好機會に當り大にこれが錯畫經營を試み或は峻岳を崩潰し或は河海を埋沒し或は橋梁を架設し或は墜道を穿ち或は險を削て夷を作り始めて坦然たる道路を見る或は運河を開浚して水路を疎通し海漕の便益を計り……或は滯を導き阻を鑿ちて稻田灌漑の利便を與へ或は妙礫を聚め土塊を積みて堤防を築き而て河水汎濫の災害を禦き或は壯麗なる大厦高樓を建設し或は宏大の倉庫を築造する等繩墨規矩能く其方に適ひ而て事業擴充し倍々信用を博するに至る三重土木會社長後藤榮三郎君の經歷に就てその要を敘べん

後藤榮三郎君は舊桑名藩の鄕士にして嘉永元年則ち紀元二千五百七年一月一日を以て伊勢國桑名郡赤須賀新田に產る幼にして後藤庄平西村太郎九等に就き讀書習字を修め復た家庭に在り父兄の指導に服して算術を研究せり十五六歳に迨び桜原東俊に追從して漢學を專修し頗る造詣する處あり後に農業に從事し最も深耕密作の法を考案せり殊に君は耕耘の餘暇常に溝を浚へ畦道を修繕し復た小堤を擇造し巧にこれが經畫を施す人皆其技に驚けりこの一事は確かに他年土木家たるの面影を示したるや疑を容れず

明治五年仝郡大具須新田外五ヶ村副戸長に拜命し其務を執る極めて迅速に萬事立ろに成る時に年二十五これ君が私生涯より公生涯に入るの過渡なり明治八年仝郡二小區副戸長に轉任して其職務に精勵せり尋て明治十二年に至り更に仝郡大具須新田組戸長に累進し能く民情を參酌して村務に當り最も意を敎育に注く常に人に語て曰く敎育普からざれば犯罪を未發に防き社會の病源を絕つ能はず其結果或は富者の害を蒙むるに至らん然らば小學の資金を出し敎育の普及を謀るは實に富者の國家に盡す義務なりと自ら卒先して金圓を投し而て

村民に諮り其賛同を得て土木を起し幾〳〵ならずして竣工を告〳〵則ち今の城南學校これなり其翌十三年仝郡獵師町戸長に兼擢し其職を執る勉めて最多數の民利を企圖し亦た衆情を集めて鄕黨の福利を增進することを期すために村民その治績を悅ばざるものなかりし明治十五年桑名郡役所新築の擧あり而て郡中に土木事業の經驗あるもの四名を拔きて建築委員に撰定するや君も亦た其委員に推薦され能く其設計を畫し而て工事を監督し著々實效を奏して竣工を見るこれ與て君の力多きに居らずんはあらず明治十六年仝村和泉學校の建設を企圖しこれを治下の村民に諮る敢て一人の異議を挾むなく反て輕からざる經費を負擔しろの事業を成就せしめたり亦た以て君の聲望を窺ふに足る

嘖々電走り雷轟き而傾盆の雨は降り來り員辨河水汎溢し怒にして堤防は決潰し復た怒にして澤止い壞れ安永村も亦た其災害を蒙り一千町餘の田畝は變して碧海と成り八百の人家は沈竈に蛙を產し溺死するもの十數名或は兄弟相別れ或は親子見失ふ者あり悲絕慘絕の狀は見るに忍びず君これに於て救濟の途を講し新に堤を築きて洪水を塞せんと經畫せり時の郡吏大に慮り倘し縣尹の手續を經ず濫に土工を起し事後に至りて工費の支出あらずんば如何と君曰く理事者にして工費を負擔せずんば財產を拋てこれに充てんのみと滿身の勇氣と全幅の力を傾け專らこれが救濟に努め東奔西馳而て南驅北走日も亦た足らず所謂一哺に三たび起つの大繁忙を極め其善後策を全ふし罹災者をして始めて其所を安からしむ世人君が俠膽と德望を景仰して歇まず

それ唯た才能あるあり故に盤根錯節及を迎へて解くを得るなりそれ唯た滑脫の敏腕あるあり大紛議大困難に處してこれを融解するを得るなり彼の有名なる大紛議事件則ち桑名福江町と大福村の間に起り

し借地料の大紛議は迭に是非内に惑ひ得失外に激し互交利する處を唱道して歇まず斯の如く相妬み相猜み相爭ひ其紛議は三ヶ年の間に渡り竟に大審院に上告し其曲直を決することゝなれり君はこれを聽き滿身の義心に訴へ彼我の間に交渉を試み能く論爭の起點を討究し能く得失の區劃を明にし激するものを抑へ怒るものを宥め或は歇話懇譚の中に或は酒席の間に脫滑の妙腕を揮ひ竟にこれを調和せしむるに至れり復た愛知縣海東郡と桑名郡の間に於ける漁業區域の論爭或は朝明郡南福崎村と桑名郡赤須賀村の間に起りし漁業上の紛議に關しても交互の間に立ち入り百方調停の勞を執り亂麻の如き紛情を立ろに處辨し双方の間に滿足を與へて局を結びたり

明治二十年三重土木會社支配人に撰任し關西鐵道會社の工事を請負ひ伊勢國加太地方の線路修築に着手せり此地は世に著名なる鈴鹿の峻嶺にして最も險阻を極む君は其任に當り或は峨々たる山腹を横切し或はその巖底を開鑿し或は峭壁を削り或は山渓を埋沒し而て全く竣工するに至る其難苦實に想ふに堪へたり明治二十一年和歌山街道改修に際して小片野地方工事を擔任せり始め山岳を鑿り下げるの設計を立てこれか土工を起たりしに怪岩奇石壘々として累積する幾千條なるを知らず到底人工を以てこれを開鑿すること難し君は中途にして設計を替ゆるに壓道工事を以てせり世人多く其成效を危む所なりしも君の計畫薫工勤勉皆其宜きを得幾何ならずして竣工を告げ新道の全通を見るに至るは人々の驚賛して歇まざる所なり其他安濃津地方裁判所四日市精米會社名古屋師團騎兵營所關西鐵道會社製鑵場四日市製油會社の如き皆其設計に成るものなり蓋し今日に於て社運の盛大を見る君の伎倆に藉て然るなり

斯の如く繁忙の業務に從事するにも拘はらず常に能く公共事業に心を戮き明治二十三年桑名郡徴兵參事員に撰ばれ後明治二十六年城南

村々長に推擧されて今日其職を保つに至れり明治廿七年一月商法に準據して會社の組織を更革し專務取締役に擧げられたり

吉田常吉君

誰れか言ふ創業は難く守成は易しと彼の創業の日には一意に進取の道を求めて艱を忍び苦に堪へ成効を樂ましむる大目的あるため猛然奮然物に接し事に觸れ直進勇前するなり此時に於ては箭弦上に在り放たざるを得ざるなり丸銃口に在り發せざるを得ざるなり馬蹄輕く揚る勢ひ奔らざるを得ざるなりこれ人の爲し難しとせざる處なり倘しそれ守成の地位に至りては創業者か踏み來りし事務を處辨して漸くこれを整理しまたその遊樂に流れて先業を失はざるにありされども世間多く祖先の餘澤に浴するものは幾多の慾望耳に觸れ目に見はるゝに從うて覺に豪奢に流れ華美に化し淫樂に耽り產を破り家を倒すもの比々皆然り故に守成の難さは創業の苦に優ること多く……三代目唐樣で書く貸家札……の悲觀を演するに至るこれ全く守成の人物を欲くかためなり余は守成の才器を抱く始めて吉田常吉に於て之

を瞻ることを得たり

吉田常吉君は慶應三年則ち紀元二千五百二十六年十二月廿七日を以て伊勢國三重郡四日市藏町に產れ其幼名を政太郎氏と云ふ後に父の名を襲く實に第三世吉田常吉君なり齡ひ七才にして四日市學校へ入學して十六年その全科を卒業せり

これより嚮き君が希望の前途は昏昧にせられ失落にせられたりそは家君の逝去則ちこれなり人生の朝に立ちて而も樂しき旅行をなさんと想ひし君は一轉して人生の夕に立つの不幸に逢遇せり噫死の神は德量多き吉田家の上にも酌恕する能はざりしが君は號哭愁傷自ら禁することと能はず葬送を終り喪を除きて後慨然志思を決し愈々守成の城闇を建設せることを一決せり

茲に吉田常吉君の伯父第二世吉田伊兵衛……爲吉氏は最も經濟の大本に通し財務の整理買賣の賬引巧に貨殖の術を施し而て節儉の美風を養成し殊に才幹機略と實地經驗に富む故に君は家庭の裡に於てそれ等の敎を授けられつゝ生長したる人なり則ち百般のこと家政……商務盡く伯父自ら指揮して制を定め規を立て君をして益々秩序的の人物たらしむることに努めたり

明治廿四年四日市港稻葉町に壯宏なる精米場を建設し精米賣買の業を始め洽く東京横濱の地へ輸出を試み日に忙を增し月に繁を加へ來りしも故ありてこれを廢業せり尋て明治廿四年以來米穀商組合なる一團体を組織せんと大に奔走の勞を執り明治廿六年に至り漸く其組織成り撰れて米穀商組合取締役と成る

噫明治廿八年は吉田常吉君か公共の生活に足を投したる一大紀元なり而て其半生の歷史に於て新趣味を興へ進歩を興へ則ち公共界に光を射りたるの最も見榮へある最も愉快なる半身の歷史なり則ち此年の一月四日市米油取引所監査役に撰ばれ尋て三月廿日四日市町々會

議員半數改選に當り全票數六百五拾點に對し五百五十點余の大多數を以てその撰に當る而てまた四日市町學務委員に推擧せられしが如き君か半生涯中に於ける名譽の最高嶺たるを失はず

何か故にや利益擧らず社則紊れ事業振はず信用地に落ちつゝある伊勢紡績會社の光景此時に當り株主擧て恰當の人物を撰び社務を囑せんことを渴望して敬まずてゝに於て君は新に伊勢紡績會社專務取締役に撰任せられたり實にこれ明治廿九年四月にして君か始めて事業界にその手腕を揮ひ正に潰敗せんとするの會社を整理し大にその基礎を固めたり

記者或日吉田常吉君を訪ひ辭柄まさに處世の方計に迫ぶ君は言へり

……常に多事を知ることを好まず一事を究むることに勵む……と然り眞に然り余は大に君の心事を探り得たり君が總ての問題……商業……公共の事業に對し猛然漫然雜然たる運動をなさゞる寔に所以あ

るかな

人物經濟の道に於てその運用を論せば君い實に腕の人にあらずして眼の人なり則ち其長所は自ら手腕を揮るにあらずしてその周到なる明敏なる精緻なる沈重なる眼光をもて常に社會の大勢を揣摩するにあり自ら功を作ることをなさず人に功を作らしむるの能力を備う一轉商業的眼光をもて看察すれば事業家にあらずして資本家たるの器量を全うせり故に君をして先天的の長處を利用せしめんとせば監督者の地位に起たしめよ而て君は閑暇あれば書史を學んで倦怠の色を生せず善をなすを樂て怠らず人より指摘せらるゝ程の過失もなく言う所これを行ひ俯仰して天地に愧ず寸毫の災禍なくて萬懷の和樂あり千人の朋友ありて一人の敵を見ず眞個に多俸の人と云ふべし君は素より策畧家にあらず辨論家にあらず政黨的首領にあらず言はず語らずの中に唯何となく一箇の潛勢力を有し大に他を警發するの處

かを有する處あり借問す後半生期の吉田常吉君は如何なる事業を畫するか

伊達太右衛門君

商機を制するは活眼の人苟も紛々たる商業界に立て利益を獲んと欲せば深くその大勢を看破すべし平凡の商估豈に能く商機を知るものならんや維新以來歐米文明國の風俗は一瀉千里の勢を以て年々に東漸し或は邸宅或は日用器具或は玩弄物或は室内粧飾品或は帽或は靴等に至るまで新を競ひ奇を鬪はす就中洋服の需要最も過大なり伊達太右衛門君夙にこゝに着眼して商勢の趨向を推測し明治初年創めて洋服店を開きたりしが品質の精良と價格の低價とを以て世上の賞賛を博し遂に方今の隆盛を見るに至れり眞にこれ商機を制するに敏なる人と云ふべし

其家は大凡二十代以前より里正の職を執り君は弘化三年則ち紀元二千五百五年十月十五日を以て伊勢國四日市港中町に産れ幼名寛一郎と稱したり而て君は父を搖籃の裡に喪ひ母と未成童の時に死別し流

離艱難の間に孤身を處して自ら業を修め能く今日家門の福利を見る唯々ろれ辛酸苦艱の凝結休のみ幼少にして贄を堀木恥堂の門に執り句讀を亨け習字を學び齡ひ僅に十四歳にして庄屋見習を命せられ其事務を練習するや能く職に厲み敏捷にして事に當り能く辨ぜざるはなし人皆其技能に服す年長し經驗を積むに從うて庄屋の役に進み專ら町務に鞅掌せり而て夙に報國盡忠の志に篤く彼の有名なる長州征伐に際し軍資金を献納して苗字を允許されたり當時商估の身にして苗字を認可せられたるは實に異數の名譽なりしと云ふ斯の如くして其治績亦た大に見るべき者あり更に明治元年に至り港庄屋に任命せられ年貢米を総括して東京淺草藏前米廩へ輸送するの重任に當り能く其職に努力して明治七年に至るまで勤績せり尋て四日市町戸長に任せられ能く町務を整理し能く民利を擧げ能く時弊を矯正し復た勤儉の風を奬勵し港民をして其處に安せしめたることは洽く世人の記臆する處なり故ありて明治九年[illegible]たり明治十三年四日市學校建築に際して出納係に擧げられ能く算し能く數へ敢て一毫の違算なからしめて理財の任務を盡したりと云ふ

是より嚮き君は深く商機を看破し泰西の風俗日に採用せられ洋服を着用せる傾向を預知し明治元年を以て初めて西洋小間物並に洋服製造店を開けり幾ばくならずして大小の官衙は勿論銀行諸會社に職を執る人學校に昇降する者製造貿易の事に從ふ實業家に至るまで總て洋服を着用するの勢を生じ其需要日に熾なり茲に於て君の計畫大に適中し益々製服に改良を加へ東京製品にも劣らざる良品を調製し丸三洋服店の名は洽く世上に鳴り渡るに至れり抑も復た四日市港に於ける洋服舗の嚆矢たり

功成り名遂げたる君は家督を嗣男貫一郎氏に讓り優遊として閑境を辿りつゝ朝に詩歌を吟し夕に抹茶骨董を樂みたりしが時勢は君を驅

て再び起たしめ明治二十八年三月四日市町會議員に當撰して專ら公共事務に斡旋盡力至らざる處なく實に壯者を凌くの氣概あり

倘しそれ事業を振興し商業を盛大ならしむるの道一にして足らずと雖も最も缺くべからざるは資本を供給し金融を圓滑ならしむるのに在り茲に君は銀行設立の要を知ると同時にこれが計畫の衝に當り始めて四日市銀行創立發起人となりこれが組織に力を盡し明治二十九年一月愈々開業の氣運に達し君は撰ばれて其監査役と成るこれ自然の大勢ならんのみ君性和歌を好み書に巧みに花晨月夕献酬濃かなる間に成れる名吟少からず殊に千家流の茶技に長し復た骨董古錢の類を愛玩して消閑の具に備ふと云ふ

高田清俊君

滔々たる醫海果して仁術の本領を知る者幾人あるぞ少しく藥種と病名を知れば已れの未熟なるを憚らず自用事を藉て忙氣に街頭を往來して流行醫を擬し而て能く富豪權貴に媚ひ亦た能く酒宴の興を幇け倘しろれ主人詩歌俳偕を好めば則ち詩歌俳偕に藉て其心を攪り主人骨董書畫を愛すれば則ちこれか鑑定に藉て其心を執り善く主人の胸底に入りこれがために寵用せられんとを求めつゝ汲々たるに非ずや斯の如きものは醫者と云ふより寧ろ慰者と云ふこそ至當ならずや獨り高田清俊君は此間に處して肯て頭を叩て人に阿ひず肯て膝を屈して人に諂はず一已の手腕を揮て起生回死の仁術を行ひ刀圭界に一頭地を表はしたるは復た沒すべからざるの事實に非ずや

高田清俊君い肥前萩の人にして万延元年則ち紀元二千五百十八年十二月を以て産れ幼名英四郎と云ひ後に清俊に改め氣色また懐雨と號

す年少にして佐賀藩弘道館の講師糸山貞幹香田眞左衛門に就き皇漢の學を研修し苦學五ヶ年頗る學術の進歩を見る明治九年文部省直轄第五大學區長崎師範學校に入學せり君は人生の常徑を眞面目に歩むの人にあらざりき故に時としては講師の意見に反抗し口を極めて論難を試みたり君校中に於ける一個の論癖家にして容易に制御し難かりしと云ふ而て君の讀書に於けるや殆んど四圍の物を忘れて全心を其所に一注し學術上に長大の進歩を表し明治十一年に至て全科を卒業せり其間淸國人朴李道に就きて書畫を學び彼の蛇の如く龍の如く太た奇にして最も讀み難き妙書は此時に胚胎せしと云ふ幾くならずして岩村通俊氏の知遇を得て鹿兒島縣に赴き伊集院學校に招聘せられ幾十名の教官を督し之れを育英の任に當らしむ而て其教育法は自然也則ち人巧を以て人心自然の發達を妨くることを非となし學生をして自ら喻り自ら解するの順序を執れりこれ君が教育上の主義なりき尋て日置阿多及び甑島の三郡聯合教育會議長に撰擧せられ能く議場を整理し能く會員に諮り以て教育の發達を圖り大に教育社會に信任を得たり然りと雖も俊秀有爲の士爰ぞ區々たる村夫子に老するものならんや明治十五年に至り斷然職を辭して東京に遊び大林寺客僧禪師德山彭白樹に從ひ面壁直指の門に入り練膽亦た養神愈々禪機の奥義を探り苦學三年豁然として道を悟る明治十七年京都東洋改進教育會に招聘されて同時にその會長に推撰せられ教育上の害を去り利を蒔き怠る者を鼓舞し務むるものを奬勵し倍々斯業の革新を圖りつゝありしが一電走りて實弟逝去の訃音を報せしため行李勿々故鄕に歸去せるの歎むを得ざるに到れり

而て君は素とこれ地方的固着心に富まざる人何ぞ齷々として鄕黨に籠居するものならんや猛然として再び起ち故岡山縣知事高崎五六及び千阪高雅氏等の庇護を得て蘭醫ブッケマ氏英醫アーノルド氏に就

きて蘭學及び醫學を研修し更に長崎甲種醫學部に入學し非常の精勵と稀有の勉勉を以て醫術の深淵を探り病理の蘊奥を究め優等點を得て全科を卒業したり時に明治二十年十二月なりき蓋し學と術とは常に參驗併進せざれば以て其堂に至るを得ず是に於て自ら奮起して東京に至り眼科界の泰斗と仰がれたる井上達也氏に就きて眼科の蘊奥を探驗し復た實地手術に補佐し大に造詣の妙を得たり幾く成ずして東京に於て知里奴留病院を設立し精勵一番して起死回生の天職を努め世間の信用を博する多く隨て院内に治を乞ふもの幾百なるを知らず

泰西の醫術東漸して以來治療術大に其歩を進め枯骨に肉し天折を救ふこと擧げて數ふべからず然れども醫の門戸を張るもの多くは都會に住し地方に至ては甚だ良醫に乏し君は夙に醫學上の地方分權論を唱導しつゝありしか明治二十三年六月始めて四日市港に來りて醫門を開けり然れども君は患者に對して世辭を振蒔き頭を叩き腰を屈して御出入醫者を以て自ら甘んせず而て多く笑はず多く語らざるため始めは俗人のために偏頗或は書生醫者と誤解せられしも其誤解せらるゝ處は反て眞價の存する所にして一たび君の診術を得たるものは平癒の期速にして治術の妙なるに感し自ら取次き自ら診察するの儀式張らざるに敬服し是に於て治を乞ふの患者門前常に市を成す彼の學問を售り御上手主義を以て流行醫を擬するものは一時世間を欺くと雖も金箔剝奪の時に於て半文の價値なきに至ると孰若ぞや

漫々たる琵琶湖の水倘しそれ比叡下しの風伯に遇はゞ必ず波濤を起し溢れて岩石に激すれば飛沫萬顆忽にして花を產み珠を生じ流れて懸崖に觸るゝときは瀧と變し淵と化すべし蓋しその遇ふ處に從ふて或は渟と成り或は急流と成る吾人は富森篤君の經歷を聞く毎に此等の感なくんばあらず或は敎育事業の普及すべきを看破して育英の街に方り或は官海の形勢稍々意思を舒ふべきを洞見して藉を官吏に列し以て公務に努力し或は政論沸騰の機に投して操觚の業を把り或は實業の振興せんとするを察知して一躍直に牙籌社會に投したる如き變化頗る多きの生涯他人の決して學び易からざる處幾多の技倆あるにあらずんは能はず記者數々其邸を敲き君に向て經歷を聽かんと欲す君は謙讓以てこれを諱らず頃者端なく慶應義塾々員履歷集を得て僅に君の經歷を知るの便を得直に把り來り以て其經歷譚に換ふ

富森篤君は舊水口藩士にして嘉永五年則ち紀元二千五百拾一年を以て滋賀縣近江國甲賀郡水口に產れ舊名篤三郎と稱したり幼にして藩儒中村栗園の家塾に遊び漢學を專修し大に學事進歩して同僚を凌駕するに至れり明治二年時に藩命を以て留學生に撰ばれて東京に至り仝三年四月慶應義塾へ入學し英學を研修し其翌四年六月塾を退き仝年育英義塾に轉校し外國敎師に就き專ら英學に心を傾け錐股懸梁以て日科を切瑳すること三箇年始めて其堂に達するを得たり

姑くにして書齊的の生活は實動的の生活に變せり君は今や學成り識進み自己の手腕を揮て自己の伎倆を顯はさゞるべからず而てその運命は將に敎育界に於て開かれんとす則ち明治六年滋賀縣々立大津歐學校に招聘せられ通辨助敎授を囑托せらる爾來專ら力を敎職に盡し其子弟を律する頗る嚴肅にして毫も假借する處なし然れども師弟の間更に城府を設けず相親しむ父子の如しために子弟をして敬服せし

む斯る間に其伎倆を伸はすべき地位と便宜とは端なく君を訪へりその悦び知るべきなり則ち明治七年滋賀縣を辞して東京太政官に出仕するの機に際會し始めて官海に嶮嶇せり其任に在る六星霜維れ職維れ努む仝十二年太政官を辭し更に大藏省に就職し最も省務を黽勉し仝十四年大坂造幣局に轉任し其職を司る精勵敢て身を吝まず在任五年一の過失なく其職責を盡したり蓋し眼界の小なるものは一端を知つて兩端を知らず半面を見て全面を見るなし酷だ笑ふべきの至りなり而て君に於ては大に然らず明治七年以來官海の嶮嶇は君が具に經歷する處なれども未だ曾て民間の事業に至ては一指を染めざるこそ恨事なれ時勢は君をして俄に官職を罷めさしめ明治十九年京都中外電報社に入り始めて操觚の業を把り勇健の筆を驅り曾て窮に時事に渉きつゝありし思想を一時に迸發せり爲に君の名は忽爾として京坂人士の耳目を聳動する處となれり君は其博くして大なる技倆を使用

君は其博くして大なる技能を使用し悉く自己の材料となし得るなり而て亦た驚くべき消化適用の才を有せり又た忽にして仝年京都株式取引所に聘用せられたる等臨機應變その身を處したる如き爰ぞ終生矻々一事に齷齪し而て何の工夫もなきものゝ敢て夢想し能ふ所ならんや適々關西鐵道會社三重縣四日市に設立せらるゝや君は京都株主發起人に擧げられ尋て仝創立委員と成り專ら力を組織に盡し愈々該會社設立するに際して倉庫課長を委囑せらる時にこれ明治二十年爾來社務に鞅掌し仝二十二年庶務課長と成り内は專ら事務機關の遲滯を生せしめざることを計り外は社務の交渉に方り能く秩序を調へ能くこれを處辨しつゝ今日に至れり

君は夙に工業場の經營に關して深く研究する處あり英人アヒリテリック、スミス氏の原著に就きて工業上に於ける時間。勞力。材料。器械力。等を節用すべき事より職工頭及其職務。工場裝置。消防。資産調査。工

賃仕拂方。病傷積立。病傷積金の勘定。遠行。見習職工に關する意見。事務の方法等要するに此書は我工業界に於ける前人未筆の新論たり名けて「工業營業法」と云ふこれ實業家に稗益を與ふること少なからずとせんや亦た以て君が如何に深遠の學識あるかを知るに足らん

想ふに君が才能の濃なる開く如く閉る如く抑る如く揚る如く活す如く殺す如く正ふこれ輕業者が尺寸の棒頭に或は茶碗を載せ或は扇子を載せ或は鞠を載せ或は盥を載せ千轉また萬轉する其精通固より言ふ迄もなく吾人は轉た君の多能なるに驚かざるを得ず大凡一課の主腦者と成り直に自家の腦中にある企圖を擧げてこれを課中の一隅より他の一隅迄實行するに至ては果して幾人かある蓋し君はその一人ならん實に君は一種の處世的奇才を有すこれ近江商人の遺傳なる乎或は君自身の發明なるかは知らざれども物に凝滯せずして能く世と推し移るの轉化的秘術こそ君の猶能く今日の地位を保つ所以なれ

島崎桑之助君

手を覆へば雲と成り手を飜せば雨と成り秒刻瞬時の間千變萬化容易に端睨すること能はざるものは商業の大活機なり然り投機は物價の變動に因りて利益を得るものなれば平凡の時には其功を奏し難し故に晴雨の變風雷の災或は地震洪水の如き人間の力を以て抑制すべからざる天變より戰亂暴動死傷等の如き人爲の災害は總て物價に影響を被らざることなし而この物價變動の巷に起て能く末來の趨勢を豫測し深く相場の昂低を揣摩して巧に商略を講し騰貴を見て買ひ低落を察して賣るが如く能く危機を制し活運を弄する等搏龍屠虎の大手腕を投機業に試むるは固より常人に望むべからず倘しそれ四日市米商界に其人を求めば島崎桑之助君の如きは蓋し庶幾からんか

島崎桑之助君は伊勢國三重郡塩濱村川喜田玄清氏の第二男にして元治元年則ち紀元二千五百二十三年十二月を以て產れたり

日本の商權を外に伸ばすの運來り機熟して横濱は對外貿易の孵化場となれり商機を見るに鋭敏なる實父川喜田氏はこの機會に投して海外取引を創めんものと明治三年横濱に抵り蚕種生糸製茶等を販賣することに從事せり時に君の齢ひ僅に七歳にして實父に伴はれて横濱に往けり君は茲に來りて商業の實況を見る豊に多少の感なかんや蓋し三年間の滞留は無邪氣なる腦裡に幾何か商業家たるの素養を與へたるや疑ひなし拾歳にして四日市港の米穀商島崎家に養はれ四日市學校に入りて其科學を研修し殊に書法に長し最も筆力勇健にして少年臨池家を以て全校に嘖々たり

斯の如くして學を修め業成り創めて養父に從うて米穀商に身を投し最も勉勵し最も誠實に働き殊に華客の利便を計りて商品を精撰して濫に利益を貪らざるため愈々信用の度を高め商務日増に繁忙し來れり時に君以爲く米穀の販路を擴めんと欲せば人家稠密の地を擇ばざるべからす然らざれば大業を爲すこと能はずと明治十五年米穀試販賣のために京濱に抵り足一たび蠣殼町を踏めば綿密精細なる眼孔を以て定期米賣買の實勢を看察し或は深川に到りて正米の聚散を查竅し而て定期賣買と正米授受の關係を對照し復た需要と供給の差は如何に價格に變動を生するかを討究する等何事に依らず氣を附け心を注きてこれを聽きこれを見所謂枝を見れば幹に及び幹を見れば根に迨ぶの觀察を下し大に商業上の新智見を擴めて歸れり

本港特産物の米穀は倍々其聲價を表はし來るを以てこゝに東京横濱に向け米穀を輸送するの目的を以て規書經營する處ありて明治十九年四月二十六日四日市米産組を設立するに際して君はその取締役に撰任せられ能く其業務を整理したり

それ猛悪の風浪に非れば水夫の技倆を識る能はず危險の戰場に非れば將校の勇武を試むる能いずこの故に人の技能を知るは紛議多事の

時に在り偶々商業上の大紛議を生し一方に肥料商の旗を上げ他方に米穀商の門塙を立て交互に利を論して相下らず疾視反目其極度に達したり此時に當り君は交互の間に交渉し怒るものを宥め憤るものを慰め懇談歡話の中に脱滑の妙腕を揮ひ兩派間の蝶番となりその軋轢を統一融和せしめたり後に肥料米穀商の二團体を解き新に合併して米穀商組合を設立するや君は撰ばれて取締役に任す時に明治廿三年これかため君の伎倆は愈々世間に嘖々たり斯の如くして君の技能は倍々世人に識認せられ明治二十五年三月四日市町々會議員撰擧あるや多數町民の輿望を擔うて町會議員に當撰の榮を得たりこれ君が私生涯より公生涯に足を投したる過渡なりき

明治二十五年横濱米穀商と四日市米穀商との間に起りし取引上の紛議は一轉して君の身邊に逼り來り大に物議を惹き起したり此際君は憂愁に沈まず憤激に陷らず終始一日の如く以て狂瀾の倒勢を挽回せんことを努め竟に善後策を講してこれを調理したる技能は敢て他の爲し得ざる處なり

失望は希望の母なり大雨の後に晴天あり一方に塞りたるものは他方に新生面を開くものなり君は今の横濱米穀取引所理事長黒部與八と相提携し蒸氣力を利して玄米を搗臼するの目的を以て精米事業を設計し明治二十五年十月四日市港稻葉町に共同精米會社を設立し尋て專務取締役に撰任され能く社務を整理し而て其商運を擴張しこれが利益を擧げ倍々事業を旺盛なしめ今日に至る迄其任に當れり

明治廿七年一月四日市米穀取引所の設立に際して農商務省の認可を得て米穀油仲買人と成り尋て同業者の推撰により部長に擧げられたり爾來日々投機界に出沒し未來の變動を察し巧にこれに應するの策を講し或は他日相場の騰貴せんことを看破するときは買ひ附け若し低落の前兆を察するときは賣り出し殊に利を得たりとて氣驕り意弛

むことをなさず損失を招きたりとて忽ち心沮み魂消へる如きことをなさず浮沈の巷に處し毅然として輸贏を爭うまさにこれ萬夫不當の勇商と言はざるべからず

これより嚮き君は自己の保管せる精米會社の搗白場に臨み機關の破損處を點檢するの一刹那これに抵觸して右掌の全部を負傷したりそれ軍馬の巷に身命を致すはこれ軍人の責務なり而て君が業務のために身体を負傷したる奚ぞ彼れと異らんや

横濱米穀問屋の機關として設立せられ武藏商業銀行は仝廿九年七月を以て開業すると同時に四日市支店を設立せり而て君はこれが支配人に擧げられ汲々として行務に司掌せり

君の頭腦は八面玲瓏にして世に處する最も巧みあり倘しそれ君と一事を論し來らば常に噸草餡的の論法を弄し人をして其語を捕捉するに苦しましむ蓋し君か轉化的奇才は尋常人の決して企て及ぶ所に非

ず亦當世の商人なるかな

譁然として賑はしき停車場騒然として喧しき埠頭彼の歐米人が巨大の革籠を隻手に提げ悠然として去來するあり倘しこれを本邦人に擎けしむれば双手僅に擎ぐるを得て踉蹌たるのみ蓋し彼は鳥獸の肉を喰ひ我は穀類菜蔬を食ふがため躰力の强弱こゝに起因するを感想せずんばあらず果して然らば身躰を剛健ならしむるの要は唯だそれ滋養分多き獸肉を食する與て大に力あるを信ず誠に言へり……一合の滋養は一解の藥劑に優る……と請ふ活牛業近藤金藏君の來歴を叙べ來らん

榕樹は乳枝地に垂れて根を生し忽ち幹と成り前時代は後時代に影ず苟も君の經歴を叙べんと欲せば先づ父の實歴をも詳說せざるを得ず これ君のためには歴史上の起點とも謂うべき事實なればなり其父を高橋巳之助氏と稱し岐阜縣大垣の人なりしが壯年にして東京に抵り其志を得ず數々前人未發の新事業を創め幾たびか蹉跌して流離顚沛の苦境に陷り盡く人生の辛酸と苦闘せり或る年亡父の佛事を營むため故國に歸去し其墳墓に詣てたるの途次一頭の牧牛澤々として秣草を喰うを見たり忽ちにして感情の動く處意志の向う處新事業企圖の動機は起り來り僅に拾數頭の活牛を購ひ自ら手綱を操り遲足復た緩歩而て短驛を過ぎ長亭を去り峻嶺を越へ溪川を渉り行歩酷だ艱み竟に東京へ達しこれを家畜市場に賣捌き一算忽ち商機に投し數百金の利益を獲取したり蓋し佛語に所謂小因大果とは此等の事實を解釋するに餘師なからずとせんや

茲に近藤金藏君は慶應二年便ち紀元二千五百二十五年十一月を以て東京淺草區黑船町に產れ搖籃の裡にありて横濱の人近藤家に養はれ六歳にして横濱學校に入りろの學科を專攻し拾四歳に至るそれ獅子兒を產めば千仞の絶壁より墜して其剛勇を試むこれ渾ての銳氣を出

し渾ての困厄に打克たしめんがためなり何れの商人か初めより其頭地を社會に出したるものあらんや此等の消息を理會したる養父は君をして忍耐克己の思想を鍛練せしめんものと決心し時に明治十二年僅に十四歳にして三井銀行横濱支店に入る能く規律を守り能く勤勉し能く支配者の命令を實行し而て事務の秩序を調へ敏速にこれを處辨し誠實を以て行中に聞へ支配者の信用を得同僚の評判も宜しく月を襲ね年を積むに從うて漸次に經驗に長し明治十六年に到る當時の人心奔屈に流れ請託攀援力を極め竈に媚び奥に諂ひ以て地歩を作さんと欲するもの多し然るに君は時流に脫超し能く時勢の趨向を預測し一に眼を茶業上に傾注し明治十六年三井銀行を辞職して東京日本橋某茶業商に一身を托せり而て茶業の良否を鑑別し分量を秤定するは頗る經驗を要するものなれば素とこれ茶業の素養なき君は取引の手續。秤定量價。等に到て管伴丁稚に嘲笑せらること多かりし然れども更に意に介せず專ら其業に精勵したりしかば僅少一箇年余にして質品を鑑別し風味の如何色澤の良否乾燥の精粗等穿ち盡して餘す處なく其他店務上に大改革を唱へ更に規を制し則を定め弊を去り利を播き惰者を徵らし冗費を節する等諄々として店主に說き竟にこれを實行せしめたり

斯の如く君が手腕き仕打ちに籍て店務上に大改革は行はれたり其怜悧にして事に敏捷なる店主を始め管伴丁稚皆畏敬せざるはなく君ハ一轉して上席管伴に進む蓋し上席管伴は拾數年店務の經驗に長したる老輩にあらされば擧げらるゝことなし今君若冠にしてこれに推さる蓋し異數なりと云ふべし

事業創設の際に當りて最も重んすべきは猛進敢行の氣象にして險を冒し危を踏み百難交々來ると雖も志を渝へざるにあり倘しそれ其成功を危み逡巡蹉跌して決行するの勇氣なき薄志弱行の徒は素これ創

業を譚るに足らざるもの實父高橋己之助氏は曾て經驗せざる活牛取引に手を觸れ正に創設の時期に在り故にこれを創むるや己に絶倫の勇氣を要するのみならず既にこれを創めたるの後と雖も直に萬全の成功を期し難く幾たびか失敗を經て始めて成功の彼岸に達するものたることを確信し最も忍耐不屈の精神を以てこれが賣買取引を遂行せり

從來活牛賣買者は其賣價を呼ぶに實價より數倍を貴くし之を懸直と稱し賣買の間應答數回に渉り僅少の減價を談し以て華客を一瞞し去り强て利益を壟斷せんとす故に此上もなく不親切なり最も輕薄なり然れども習慣の久しき此弊風を矯むること能はざりき實父己之助氏はこれを慨して一を以て百に換ふる如き懸直の俗習を打破し奇道を踏み險機を昌さず專ら正實と勤勉と着眼の斬新とを以て取引を試む其賣買法已に時流に脱超せりために華客の信用を博取し商勢大に振ひ來れり蓋し東京ハ全國の富を集むと雖も元來活牛需要の地にして生産供給の地たらず故に實父己之助氏は取引の規模を擴張するため明治十八年の頃より伊勢國松坂へ出張店を設備するに到れり此時機は確かにこれ事業擴張の時期なりき擴張は創業よりも苦心せざるを得ず故に此時機ハ實父己之助氏一生の中最も繁忙の時期なり最も勤勉の時期なり最も商運進歩の時期なり此等の情勢は君をして活牛業の新生涯に入らしむべく餘義なくせり時に年二十一便ち實父に伴ひ活牛の生産地たる近江、伊勢、伊賀の各地方に出張することハなり慣れぬ草鞋に爪先を痛めつゝも實父が奬勵の鞭を加へられて克己の念を起し各地取引先きに到り賣買の摸樣体量の輕重骨格の大小肥瘦の區別肉皮の有無取引の實況を觀察して其間の關繫を理會せり噫恐るべきは勉强心なり驚くべきは熱心の力なり昨者僅に売子を脱したる芥種今日はその芽を發し幹を成し亭々仰き見るに到る從來實父

の下に働きし管伴は賣買取引上の伎倆に於て確かに君の眼下に落ちたり如何に進歩の駿速なりしかを見るべし何そ識らんや斯の如きの小技倆は後日同業者と大競爭を試むるの曉に到達して大勝利を得るの要素ならんとは

咄々皷は鳴れり旗は樹てられたり而て商戰は開かれこゝに活牛業の大波瀾を呼び起し來れり當時第一銀行四日市支店長八巻道成の主唱に錯り資本金三萬圓を以て牧牛會社を設立し全力を盡してこれに當れり而て從來動物は荷爲換の便開けざりしも八巻道成か銀行に縁故あるを以て一種の便宜を以て金融を助け劇烈なる大競爭を試みたりこれ創業以來未曾有の大難事たり然れども實父は老練實驗の手腕を有し君は年少氣鋭の身を持し俱に自若として騷かず徐に競爭の準備を整へ正々堂々旗幟を鮮明にして競爭に應じたり然るに牧牛會社は數十の株主より組織したるもの故に株主は利益を目的として該社に

加盟せるものなり而て創業の際に當り此激烈の競爭に遭遇し疏利の博すべきのみならず日々の損失夥しくために幾多の苦情を生し來り僅少一箇年余にして閉店の不幸に陷れり然るに君の家は從來得たる處の利益若干を抛て競爭費を補ひしため人心一和して進退度あり父生産地に赴けば君は販賣地に奔る等最も敏活の運動を試み而て部署整然東西相呼應し迭に全力を傾注して相働けりこれ君が此大困難大危殆に處して其措置宜きを得たるの効果ならずとせんや若しそれ實業家に月桂冠を與うべくんば活牛業競爭の大勝利者として株式會社を討滅したるの功によりて渠に與へざるべからず

幾何なくして一大悲痛は君の家を訪へり則ち實父己之助氏は明治二十三年に至りて遽に逝けり噫哀い哉然れども人の世に生ける功を成し名を遂くるを主とす實父既に功成り名遂けぬ他の功名二つなから得ずして碌々百年の壽を保つものに較べ來らば其優ること萬々決

して遺憾なからん咄々何事ぞ君の涙痕未だ乾かざるに一大警報は頭上に墮ち來れり時はこれ明治廿五年の頃にして活牛業に取りて最も恐るべく最も悪むべきの一大勁敵たる牛疫の流行これなり而てこの惡疫に罹り且に斃るゝもの夕に樸殺せらるゝもの其幾百千頭なるを知らず而てこれがため非常の大損害を蒙り稀有の危殆に陷りしにも拘はらず忍耐の念精勵の氣を發揮して其難局を踏破し竟に商運を挽回するに至れり

これより嚮き東京家畜會社は四日市に支店を設立してその取引賣買を試みたりしも敢て利益擧らず大に失敗を生じ竟に閉店するの歇むを得ざるに至れり茲に於て君はろの後事を引受け明治二十六年五月を以て更に四日市港稻葉町に活牛問屋の門戸を開きたり蓋し江州。伊賀。南勢の各地に生產したる活牛は此港を經由して一帆直に横濱に搬輸し得る最便の地利を占む君か此港に商店を新設する眞に以所あるならん而て東京芝白金町に飼場を設立し亦仝區高輪町に賣捌事務所を置き實弟高橋留吉氏をしてこれが任に衝らしめ東西相呼應して斯業に黽勉し日夜怠ることなく常に素望を貫かんことを俟期し能く商機を操り殊に君は信義に厚く最も店員を愛撫するために屬者は其業に努むるを悦び華客は愈々信任を置き取引日に煩を加へ倍々今日の隆盛を見るに至れりこれ職として君が經營の宜しきを得たるに由らずんばあらず

蓋し君の容姿は融々として春を含みその神意は澄々たる秋水の如く些の混濁を交へず最も謙德を奉し言ふ處之を身に行ひ行ふ處これを心に會し心口一致清き生活を以て一生を始終せんとするもの而て最も文學を嗜み時としては新著書を品し時としては文壇の作者を月且する等プラウタスの所謂文學を以て娛樂の自用にのみ供せりとは蓋し斯る類あるならん而て亦た慈善の志敎く常に財を投して貧孤を恤

み薄命を憐み其他教育衛生及道路修繕橋梁改築等の諸費を補助し官より木杯及賞狀を下賜せられしこと枚擧するに遑あらず殊に明治二十九年八月末の大風害に際し稻葉町の如きは大風潮に打捲かれて五拾餘戸を潰崩し最も慘を極む此時に當り如何に君が罹災者救恤に努力せしか請ふ把り來て一たび日本新聞……第二千五百十號……を閲覽せよ

美擧　斯の如きは五十年來稀有の慘事にして家財道具を流失し衣なく食なく唯た饑を訴ふる慘狀は[illegible]にも劣らず僅に災害區域の小なるのみ玆に[illegible]氏災害の翌未明を以て被害者を見舞ひ金百[illegible]の急を救ふ罹災者其恩に感泣せり

蓋し百度說法の功能は一日に實踐の德化に如かずと善人多福の證君に於てこれを見る噫己を利するを知りて他に施すを知らざるもの奚ぞ能くその意を解せん

山中傳四郎君

蓋し創業者は辛酸を舐め艱苦に耐へ儉素以て身を奉じ勤勉以て業を勵む故に其家運の榮もるは言を待たず然れとも第三代を超へ第四代を過き第五代を經第七代に至り更ゑ十幾世の時代に迫へば其子孫たるもの祖先か創業の際に於ける苦心勤勞の如き敢て夢想し能はざるため金錢の不自由なきに任せて漸く驕奢の風に移り自然と怠り易く活用實務を疎んじ忽ち精神も鈍れて遊惰に陷り終に家產を傾くるに至るは蓋し古今の通患にして子孫血食せざるのものは皆守成の人を欲くがためなり守成の難きやそれ斯の如きかその身は素封の家に產れ能く此弱點を抑制して夙に心を理財に注き亦た着實に事業を企劃し拮据經營苟も誤謬なかんことを期圖し益々殖利の要道を講して其祖先を辱かしめず家運の繁榮を永遠に傳へんとするもの吾人これを山中傳四郎君に於て見るを得たり

山中傳四郎君は三重縣伊勢國三重郡四日市町大字川原町の人にして嘉永六年則ち紀元二千五百拾二年冬十二月を以て產れたり其家系連綿として幾百年の長きに亘り四日市港に於て最も古き家柄なることは洽く世人の認むる處にして實に君は山中家に於ける中興九代目の嗣兒たりと云ふ往昔專ら干鰯を販賣し東山近畿及び美濃。尾張。參河。紀伊。志摩。伊賀。伊勢の各地に向て大に取引賣買を試みて肥料商の實權を把掌し多額の利益を獲取したりしと云ふ幾代の後に至り商業の規模を擴張して棧留縞の賣買を創めこれを美濃に仕入れ遠く江戸に輸送して販賣を試たり當時棧留縞の流行甚だ熾んにして上は御屋敷に職を執るの士卒より下は町人百姓等に及び倍々世の嗜好に投しを隣家の女子が之を新調せしため吾家の娘も必ず此縞を着用せしめさるを恥つと云ふ如き大流行となりしため年々歲々商業隆盛に趨ひき其利他に比すべくもあらず家運愈々繁昌を極めたりと云ふ

大凡商估たるものは能く商勢の趨向を看破して輸廠を商戰場に決せざるべからず君は茲處に見る處あり明治二年四日市港北納屋町をトし始めて運漕業を創立し貨物を遠近に輸送するの業を營み專ら確實を以て急送速達を計る人皆運輸の便を得○座して貨物を何れの地にも送る能はざるの地なきに至らしめたり

茲に於て運輸區域の擴張を計り明治十一年名古屋市木挽町に支店を設立し橋本末松氏を以て之を管理せしめ參河○尾張○美濃○各地の貨物を一手に引受けて愈々運輸業の版圖を開拓せり

明治二十年關西鐵道開通するや商況忽然として一變し各停車場に於ける貨物の聚散甚た著しこゝに於て四日市停車場接近地に第二出張店を新設し復た津停車場所在地に第三出張店を增設し土田半助氏をして專ら貨物運輸業の任に當らしめ仝廿七年參宮鐵道全通に際して松坂停車場前に第四出張店を新設し殊に名古屋停車場所在地征島出張店を設立し益々運輸機關を擴張せり君亦た人を用ゆるの手腕あり運輸業創立以來已に二十有七年間而て五十有餘の番頭手代を使用し圓滿融々各々擔任の業に鞅掌す蓋し今日商勢の盛大なるこれが一大源因たらずんばあらず

幾多の時弊幾多の情實幾多の紛議愈々至湧して究極なく一たび全港の大事あるに會へば老輩相率てこれを避けその自家の利害を見れば必ずや群起してこれを爭ふ病源既に業にこゝに在りとせば誰か匙を把てこれを治するものぞ吾人は港運難澁意氣銷沈の今日に於て確かに革新の味方たり進歩の友たる新進の壯年輩を思はざる能はざる也倘しろれ千峰萬岳を經過する百川の注きて竟に海に至るを知らば吾港若手の有力者か時局救濟の大任を把拿するに至るも亦た決して疑ふべからず彼の壯年有志家は時勢的智識を疎通し復た全港の元氣を吹皷しこれを公共事業に應用しては革新の急先鋒となり退ては地方問題の得失を規するを得ん蓋し將來に於ける公共的事業家として豫めこれを熊澤九右衛門君に待たさるべからず

熊澤九右衛門君は愛知縣丹羽郡定水寺村の人にして元治元年則ち紀元二千五百二十三年十月十日を以て產れ未成童にしてその叔父たる熊澤家の養子となれり養父某素と尾州丹羽の僻陬より起り明治七年竟に居を四日市港に移して商店を設けたりこれ今日に在りては敢て嘆賞の價値なしと雖も當時に於て彼の如きものそれ果して幾人かある猛志敢行の人にあらずんば焉ぞこれを能くせんや君幼にして養父に從ひこの港に來り或は出で學校に遊び入ては商務を練習しその淫養する處渺からず爾來種油販賣に從事し近くは伊勢。伊賀遠くは近江。美濃。尾張。等の特產地よりこれを購買し來りて東京大坂は勿論北海道及三陸地方復た奥。佐世保等の各地に搬致して販賣するに至れり今や養父は商務の全般を君に任せて復た顧みず君日々業務を調へ最も商品を精撰し最も價格を低廉ならしむ殊に委托販賣品に對し敢て問屋主義の手數料を要請せざるため信用日に加はり市川屋の號愈々種油業界に喧傳せり

蓋し退縮に退縮を重ねたる港事必ず滌蕩振刷耳目を一新する處なかるべからず其術固より多方にして其機固より多端なりと雖も進歩の動機は時務的智識を吸噓するに如くはなし君は夙に所見を抱き明治二十二年學友會を組織してその幹事に擧げられ以て大に時勢的智識を疎通して互に自ら敎育すべきの基を作れり明治二十八年三月○四日市商業會議所會員に撰任せられ尋て仝年十二月○四日市實業談話會幹事に擧げられその翌廿九年四日市商業學校幹事と成り復た幼稚園組に努力せり

倘しそれ今日に於て天保時代の殘夢を貪りつゝある白頭の老輩に對して社會進歩の大勢に鞭たしめんとするは猶ほこれ過去隋力を過重視するものならんのみ苟も一地方を利導せんとするものは進歩の大法を看るの識あかるべからず須らく此大勢を捕拿するの勇なからざるべからず蓋し君の如きはそれ庶幾らんか君は能く辨し能く論するの人然れども巧に舌端を弄するもの必ずしも說者を高まらしむるものにあらず斯る弊あればとて後進有志家としての技倆は決して沒すべからず何となればその時事問題の利害を論斷するに當りて進歩の航路に取り殘れたる半死白頭の舊思想派を攪破するの手腕を有すればなり苟も君にして着々其機を捕て其術を施さば港事を革新するに於て何の難きかこれあらんこれ君が將來の理想を描きたるもの而て君の理想に近くか否やは一に君の實踐躬行にあるならん

實務家經歷譚第四編（上）

金澤山有君

混々して伊勢灣に澆き來る三瀧川の流……其泉源に溯れば或は滴々として岩石の裡を過き或は濕々として落葉の下を潛るときは誰か大船巨舶を浮ぶるの價値あるを知らん人の裸体にして社會に產れ來りしとき誰かその價値を鑑識するを得るものならんや殊に社會に起すべき事業酷だ多し或は政事或は工藝或ハ商業等の大家となるにもせよ其前身は必ず幾多の苦難を踏み勞力の下を過きその結果大政治家大工藝家大商業家と成りて一家を起し國利を增進する者なり蓋し三瀧川の流にして伊勢灣に澆くの水勢なくんば決して大船巨舶を浮ぶの壯觀なし人にして猛然千艱を排し萬難を切拔くるの忍耐心なくんば其美果擧らざるべし余は金澤山有君の來歷を敘するに當りてこの感なき能はず

金澤山有君は高知縣土佐國香美郡赤岡村の人にして天保三年則ち紀元二千四百九十一年九月を以て產れたりその家は世々農を以て業とす始め吉右衛門と稱し後に山有と改む君は幼にして商を好む常に父と共に耕耘の事に從ひ暇あれば犢を牽て山谷を跋涉し薪を採りて以て市に鬻くなど今日商業界に頭角を表はしたるの才器は實に此生活中に淘成せられたり

往昔小野道風は蛙が池塘の柳に飛び上らんとして屢落ち屢上るを見て齡六十路の坂を超るにも拘はらず熱心その道を學びしため遂に日本一の書聖と成る而て金澤山有君は年正に四十歲にして始めて商業の門に足を投じ今日の位置を得たる何ぞ渠と相似るの酷だしきや則ち明治六年三月始めて三菱會社へ入るこれぞ君が矢立を劍に替へ張簿を甲冑に代用して商戰の巷に初陣したるの發足點にして而てその

俸給僅に六圓尋て廻漕掛係兼爲替係を命ぜられて月俸拾圓に進み尋て扶桑丸荷作配兼船客店接係を命ぜられしは仝六年十一月にして更に仝七年六月太平丸事務員に榮轉し第七等下級拾五圓に增給せられたり

此年北海諸港渡航中海上風浪の厄に罹り大波の寄せては碎け碎けては寄する勢山より高くこれに打たれ忽如九天の上に湖るかと見れば突然九地の底に落つ左に沈み船内の貨物左顚右倒或は起き或は倒れ殊に火藥を搭載したりしため其危險言ふべからず此時に際し君は必死の力を盡して船員を指揮し各自擔任の職に努めしめ些の亂雜なく些の過失なくこれを處辦したり三菱社其功を賞して金圓賞狀を與ふ則ち記して曰く

金五圓也

右者先達以來北海諸港航海申付候處同處ノ儀ハ常ニ風浪烈敷且寒氣難堪場所ニ有之殊ニ今般ノ儀ハ火藥積入候ヨリ船内都テ禁火致候得共一同厚主意引受數月間勉强致無滯歸港相成候ニ付爲其賞右之通差遣候

金澤吉右衛門

明治八年　三菱會社

明治八年二月教賀丸事務心得を命ぜられ尋て仝年六月千年丸事務長へ累進して月俸拾七圓五拾錢に增加し仝年十一月再び月俸貳拾圓に進みたり

これより擢き太平丸に事務員たりしとき其船員を待つや懇篤而かも眞實を以て能く彼等を愛し一尾の魚をも頭骨より鰭に至る迄衆と俱に啖うの主義なれば數年の中に未だ曾て一人の船員を刑せずために船員その大量に服せり故に君が陸上在勤となりしを聞き大に離別を惜み皆痛嘆して歇むとなかりしと云ふ

明治九年二月運用課事務辨金係に轉勤しその明る十年八月廿五日東

京三菱支社事務員へ榮轉し月俸貳拾五圓へ昇進したり

爾來專ら內部に在りて銳意熱心其職を盡し業を勵み大に三菱會社のために全力を注きてその效績著大なりしため明治十一年十二月に至て三菱會社はその功を擧けて賞を行う

本年勤務三百五十六日以上に及び候段殊勝之卑に候依而

爲其賞金千疋差遣候事

それと仝時に第十二等下級に任して月俸三拾圓に增給せり如何に君が三菱會社のために忠勤なりしかを推斷すべし

明治十三年一月東京支社事務員として解舟及輸入係を命せられてまた更に第十二等級月俸三拾五圓に加給せられたり噫君は生長したる上に生長せり進歩したる上に進歩せり君が三十歳の地位は二十歳の地位よりも進めり五十歳の地位は四十歳の地位よりも登れり君の生涯は階級的なり恰も學生が一學期に一級を進むが如く次第に高天に

向て近けり君の生涯は擴充的なり漸次に半空に對して進歩せり則ち明治十三年十月神戸三菱支店事務司掌となれり眞に然り君い今見事に一個の商人となれり一個の紳士となり來れり君の得意想うべし尋て仝年十二月四日市支店事務長となれり其翌十四年月俸四拾圓へ昇給せり仝十六年伏木支店へ轉し仝十七年本社へ歸任して本務課に執務中正に高天に達せんとせし身は一轉して地平線以下に降れり則ち俄然として月俸廿五圓に低減せられたりこれに於て君は怏々として樂まず斷然意を飜して職を辭せしかば三菱會社は君が職務に盡したる功績を賞せんため功勞金として三百金を贈れり

如何にして自立すべき乎の疑問に苦慮したる君は一大覺悟を決し旅裝を整へ行李を納め明治十七年十一月再び四日市に來り直に米商を始め勇氣を厲まして商賣を怠らず利害を看破すること最も敏くして商業上の駈引等向う處敵なし賣れば儲け買へば利を得る幾干もなら

まして富裕の身となり從て米商社會の信用を博するに至りし故明治十九年始めて三重縣精撰米檢査所を設立するに際し多數の望を得てその取締役となり仝廿三年に抵る此年十二月四日市米穀問屋組合所を起せりこれまた君を推擧してその取締役に進む仝廿六年に迨びてその職を辭したり明治廿七年一月米穀問屋組合評議員に擧げられ廿六年八月四日市商業會議所會員に當撰の榮を擔ひ四日市商業大革新の策を講せり

これより齎き君は米穀商社を起し蒸氣力を利し來て精米を製し遠く京濱の需要に充てんと專ら精米輸出に力を盡し爾來法令の改正に藉りて米精株式會社と改稱し株主に推れて現に專務取締役たり

明治廿八年海運陸送上の附帶機關たる四日市倉庫會社の創立委員となりその組織成り業を開くに當りて監査役に推擧せられたり君が今日の地位と信用とを得るは全く一事を實行にせず最初は薄給に甘んじ孜々汲々として一を踏んで二に進み艱苦の間を過き難澁の下を潛り遂に大業を全うせり恰も三瀧川の泉源を江州山頭に發し落葉を潛り小溪に合し岩石に觸れ遂に伊勢灣に注ぎ來るが如しと云うべし

噫世間多衆に愛敬せらるゝもの果し幾人ぞある譽望あれば毀貶あり知己あれば反對あり欽慕する者あれば嫉妬の輩あり抵掌激賛するの士あれば罵倒嘲笑するの徒あり愛敬嘘愛敬果た何れの處にか汝を求めん特り悭む君に至りては譽望あれども毀貶する者なく知己あれども必むも反對の徒なく欽慕する者あれども正しく嫉妬の輩なく抵掌激賛するの士あれども罵倒嘲笑する人なけん蓋し想ふに山有君はそれ愛敬の菩薩に擁護せらるるものならん

まして富裕の身となり從て米商社會の信用を博するに至りし故明治十九年始めて三重縣精撰米檢査所を設立するに際し多數の望を得てその取締役となり仝廿三年に抵る此年十二月四日市米穀問屋組合所を起せりこれまた君を推舉してその取締役に進む仝廿六年に迨びてその職を辭したり明治廿七年一月米穀問屋組合評議員に擧げられ廿六年八月四日市商業會議所會員に當撰の榮を擔ひ四日市商業大革新の策を講せり

これより齎き君は米穀商社を起し蒸氣力を利し來て精米を製し遠く京濱の需要に充てんと專ら精米輸出に力を盡し爾來法令の改正に藉りて米精株式會社と改稱し株主に推れて現に專務取締役たり

明治廿八年海運陸送上の附帶機關たる四日市倉庫會社の創立委員となりその組織成り業を開くに當りて監査役に推擧せられたり君が今日の地位と信用とを得るは全く一事を苦且にせず最初は薄給に甘んじ孜々汲々として一を踏んで二に進み艱苦の間を過き難澁の下を潜り遂に大業を全うせり恰も三瀧川の泉源を江州山頭に發し落葉を潜り小溪に合し岩石に觸れ遂に伊勢灣に注き來るが如しと云うべし

噫世間多衆に愛敬せらるゝもの果し幾人ぞある譽望あれば毀貶あり知己あれば反對あり欽慕する者あれば嫉妬の輩あり抵掌讃賛するの士あれば罵倒嘲笑するの徒あり愛敬嘆愛敬果た何れの處にか祢を求めん特り恠む君に至りては譽望あれども毀貶する者なく知己あれども必むも反對の徒なく欽慕する者あれども正しく嫉妬の輩なく抵掌讃賛するの士あれども罵倒嘲笑する人なけん蓋し想ふに山有君はそれ愛敬の菩薩に擁護せらるものならん

田宮善次郎君

社會の事業幾百萬ならず然れども其成敗得失の機を察すれば總てこれ冷熱の二途に決するのみ以て工藝に顯るれば則ち巧拙の別あり以て産業に藉れば則ち興廢の別なり以て商事に發すれば則ち損益の別あり素と此等の縣隔あるにはあらざるべし唯其熱心力を一處に湊注し得ると否とは則ち事業の上に生ずる效果の小大成敗の起因する處にして所謂成效なるものは則ち其熱心力の全量を一時一事に湊注し得るをこれ謂うに過ぎざらん此復雜なる事業中に於て唯々一業に向て能く熱心力の全量を湊注し周圍一切の感覺を斷して數十年一日の如く全身の力を迸發して間斷なく銀行業務の上に注射し以て其技能を開展せしめ確にこれ銀行社會の覇權を握る田宮善次郎君の經歷に就て茲に叙說する處あらんと欲す

三井銀行副支配人田宮善次郎君は安政三年則ち紀元二千五百拾五年十月十日を以て岐阜縣羽栗郡田代村高橋某の家に産れ後に田宮家を襲く而て田宮家は三井家創業の際よりその家に仕へ實に譜代の主從たる因ありと云ふ

而て君は弱年の頃儒者角田某の門に學藉を措き漢書習字を修め曉は鷄鳴を聽きて殘燈を喚び書策に對し琅々たる讀書の聲は四隣の人を驚かし研鑽益々奮ひ精力を傾注して餘す處なし時人君の勉强に驚きたりと云ふ

茲に於て鄕黨相傳へて君が器を偉なりと稱し善くこれを遇し尋て育英學校の助教に推薦したり君其任に當り學生の薫陶に從事す幾日ならずして希望の美昧は已に君の吻頭に接せり經濟界の名譽は已に君の眼底に映し來りてその拾うに任せり超世の才能を懷き雄心勃々として禁ず能はざりし君は名を成し功を遂ぐるの一念よりして三井銀行岐阜支店に入る時に明治七年二月而年僅に拾七歳ままにこれ君の

運命は經濟界に於て開かれんとするの一大過渡なりき仝九年一月三井銀行松坂支店に轉任を命せらる爾來薄書堆裡に眼を埋め非常の勤勉を以て業務に服せり此地は素と三井祖先の鄉土豈に多少の感慨あらずとせんや或は彼か先人の足跡を追懷し或は彼か祖先の墳墓を訪ひ或は彼が鄉宅の地形を察する等四圍の境遇は知らず〳〵銀行者たるべき地位に導きたり仝十一年十月任に津支店に赴き層一層執務に精勵し事端紛糾先輩と雖も敢て處理に苦しむ難題の如きも一たび君の手を藉るときは快決明斷鋭刀亂麻を截るが如く毫も事務の澁滯を見す愈其伎倆を顯はし確かに一己の好運命を開拓し得べき時機を迎へ明治十三年十月京都支店に榮轉して貸付係に任命せられたり

これより嚮き明治十年不幸にして西南の叛亂あるに會し其軍費を支へんがため政府は紙幣を發行せり是に於て紙幣流通額は劇に增加し來り戰後の經濟社會は膨脹し明治十三年頃に至ては物價益々昂り新

事業愈々起り而て地所の價格最も著しく暴騰し來り新事業に向て資本を供給するの道は一に銀行をして金融せしめたり空景氣に盲動され地價暴騰の時價に準し土地建物に向て資本を供給したる京都竹原の二銀行は遂に閉店破産するの不幸に至るこれ一時經濟社會を感動し其餘勢は端なく三井銀行支店に波及し一敗地に塗れんとするの逆境に陷り世人をして悚然たらしむるあり而て其弊を承くるなからしめんと欲す談何ぞ容易ならんや君い當時貸付係の局に起ち最も危險の行路を踏み或は幾多の困難を排し或は全力を傾注して保險策を案出し或は寢食を忘れて思慮を勞し尙し方策其宜を誤るときい弊害の及ぶ所測り知るべからず然るに獨り三井銀行支店に限り擔保品流込或は滯貸或は流込抵當品低落等の危險を免れ金融界の勁敵たる大藏惶を改滅して內顧の憂ひなからしめ得たるは蓋し君の技能與て大に居らずんばあらず恰もこれ鳳雛の卵を破りて孵行したる如く此の一

舉は君が銀行業に於ける大跳飛を試みたる一轉機なりき

然れども君の眼底は獨り銀行事務を見るに忙はしきのみならず餘力を以て學識智見を擴めんことを希望し儒を以て京都に鳴る中村水香の門に遊び漢藉を精修し其得んと欲しては得るに至らずんば決して歇まざる堅確の志を以て倍々斯學の蘊奥を極めたりまさに君が他日其志を展べんとするの氣慨知るべし

水至りて渠成り豆熟して莢開らくが如く君の好運は倍々開展し來れり明治十九年三月八王子支店支配人に累進せり劈頭第一內外の積弊を一洗せんものと從來の御役所風を打破し尋て營業時間の制限を解きて拂曉より深更に至る迄行務を取扱うの新制を定め或は屬僚をして能く華客に敬愛を盡さしむる等頗る行務上の面目を刷新せり而て當時八王子支店の業務未だ發達せずして金庫中に遊金を生じ新に擔保品を撰びて資本を供給することを避け故に金庫梗塞して產業の發達を媒介するに足らずこれ全く銀行制度の大法を重せざるもの君は深くこれを慨し正當の範圍內に於て金融の調和を謀り產業の發達を賛くるため或は接近郡村に於て生糸繭織物等の市場を開く毎に其處に臨時出張處を假設して金融上の利便を與へ或は薄弱產業家のためを計りて銀行內に生糸結束所を設備したる如き或は擔保品の版圖を擴張して資本の供給を裕かならしめたる如き或は荷爲替の便法を奬勵したるため金融を疏通し一朝にして荷爲替の額百數拾萬圓に達するを得たる如き總てこれ君の手腕を藉て金融界の發達を謀り產業界の伸張を見るに至れり明治二十五年六月三井銀行本店に歸任せんとするや實業家は一大吃驚を極め神奈川縣生糸營業者先づ起て留任の請願を爲せり尋で各地の織物商の實業家相立てこれに應じ擬々として本店に急馳し最も熱心に留任の要を說き去り論じ來りて歇まざりしも竟に願意を達することを得ざりき愈々歸任に當り彼等は君のために

逆盛衰を察り而て特別の辭を裁す茲に其要を把り來れば

夫商業ノ道タルヤ別ニ一途ノ奇術有ルニ非ス惟ダ時機ノ變遷ト人心ノ向背トニ關セ利害其宜キニ處スルニ在リ然リト雖顧ム所ハ資金ノ流通ナリ若シ其流通便利ヲ得ザルトキハ奇才雄略ノ英商ト雖モ何事ヲ成就シ得ンヤ當地寄留三井銀行支店長田宮善次郎素其人タル篤實溫厚ニシテ信義ヲ旨トシ人ニ接スル其体ヲ失ハズ而ヲ能ク事ニ臨ンテ果斷尤モ理財ノ道ニ長シ能ク縣下一般商ノ人情態ヲ洞察シ物價ノ昂低時機ノ緩急ヲ窺測シ金圓ノ融通貸借ノ便利施設其宜キヲ得機軸其要ヲ誤ラズ遂ニ能ク衆人ヲシテ其幸福ヲ得セシムル豈尠少ナランヤ就中製糸家及生糸營業ノ輩頗ル其恩澤ヲ蒙リ其恩惠ニ浴シ其功績偉勳衆皆瞻仰ス……以下略

此の頗辭の如きは確かに田宮善次郎君を銀行家として說明するに於て大なる案内を與るもの豈に吾人の贅々を要せんや

京都に在ては經濟界の勁敵たる大蹶惶に對し戰の聲を揚け全力を傾けてこれを攻滅し入王子に在ては金融機關の新版圖を開拓して功績著大なりし君は地位益々進みて三井銀行營業課次長に任せられたり大坂は其地勢まさに關西の要衝にして而も全國の富力はこゝに聚注す君は則ち大坂支店貸付係に轉任せり時はこれ明治二十五年十月それ此都府に任するもの其人を得ずんは或は擔保品の鑑識を誤り或は滯貸となり或は抵當流込となり或は流込抵當品下落となり怨ち相害を蒙ること勘かならず君は其局に當り最も銳眼を以て實業家の內幕を探り而て其資產の多寡を查察し或は商業家の信用如何を相判する等恰もこれ探偵か秘密事件を詮索する如く最も嚴密に債務者の情勢を查察せり故に抵當流込或は擔保品の下落或は滯貸等の損害を免れたり而てこれがため金融運轉の現象を生ぜしめず反て貸付金は數百萬

圖の多額に達するを見たり亦た以て其才幹智畧の群に超絶するを知るべし明治二十七年十二月に至り四日市支店支配人に累進す日々店頭の帳場に坐し身邊に輯集せる内外の劇務を指揮し細大となくこれを處理しつゝ敢て倦怠の色なし殊に君は時勢に先て進むの方策を講り最も金融機關の版圖を擴張せんことを志し暇あれば立案設計其調査に手を下し時としては徹夜其眠に就かざることあり彼の讃生糸を擔保品として金融を與へるの新路を開き經濟機關を圓滑に運轉せしめたる如き優にこれ君か獨力の計畫全く其機に適中するを得たり或は倉庫の制度を完全ならしめんため四日市倉庫會社の組織に力を盡して其成立を保たしめたる如き或は商業手形の使用を勸奬したる如き或は充分に銀行を利用するの風習を養成せしめんことを經畫したる如き或は銀行内に肥料米穀、繭、生糸等の見本室を設備し以て擔保品の參考に資せんものと施設を試みたる如き君が僅少の歳月間に四日市實業界を提撕したる功績は請ふその實歴に問へ必ずや餘師あらん

今や戰勝後の實業界は膨脹し來り新事業は雨後の春草に均しく續々として勃興せり而て將來注意すべきは金融と事業との關聯これなり恰もこれ征南戰後の時代に均し想うに今後の經濟問題は必ず紛糾駁雜を極めん誰か能く此の間に起ちて紛々たる金融界を指導するものぞ茲に於て曾て征南戰後の金融界に活躍を揮うたる君は明治二十九年二月一躍して三井銀行副支配人に進み尋て貸付係に榮擢したりこれ自然の大勢ならんのみ